

NATIONALBIBLIOTHEK
Zeitschriftensaal.

Jaro X, N-ro 9

SEPTEMBRO, 1929

LA REVUO ORIENTALA



JAPANA ESPERANTO-INSTITUTO



第十年

第九號

目次 (ENHAVO)

ラムステッド公使を送る.....	257
海外報道.....	258
内地報道.....	260
第四 Oficial Aldono	川崎直一 265
エスペラント初等講義.....	城戸崎益敏 268
エスペラント中等講義.....	松本清彦 270
質疑應答.....	小坂狷二 272
一路ロンドンへ.....	進藤静太郎 274
新國際語 Novial.....	小坂狷二 276
ドイツ人のはしくれ.....	栗飯原晋 278
新刊紹介.....	大島義夫 279
「通俗科學欄」河豚の中毒	三雲隆三郎 280
語學研究欄.....	283
インドネジャ民族.....	浅井惠倫 284
「阿彌陀經」(梵語よりエス譯)	野原休一 286

表紙——江上武夫 飾繪——大橋介二郎

例會兼研究會

(本月中もやすみません)

日時場所——毎水曜午後7時から學會で

會費——無料

用書——Hamleto

常設講習會

◆初等科 本月は休講

◆中等科 本月は例の如く開講

本月會話練習會

本月は大會に付き休會

東京市牛込區新小川町3の15 財團法人日本エスペラント學會

La Revuo Orienta

JARO X, N-RO 9

SEPTEMBRO, 1929

Ni Dankas, D-ro Ramstedt

Adiaŭo al li baldaŭ forveturonta hejmen.

En Februaro, 1920, okaze de la bonveniga kunveno al D-ro G. J. Ramstedt en Enrakken, Tokio, ni esprimis nian koran ĝojon akcepti la unuan senditon diplomatian de la nove liberigita popolo, kiu parolas la lingvon apartenantan al la sama lingva sistemo, kiel nia, kaj deziris, ke li, la prezidinto de la Finna Esperantista Asocio, havas plenan sukceson pere de nia kara lingvo en sia laboro, povante intime sin rilatigi kun nia popolo kaj tiele firmigi efektivan amikecon inter lia kaj nia popoloj.

Pasis de tiu tempo naŭ jaroj, kaj dum tiuj naŭ jaroj li plenumis perfekte sian taskon. Li energie klopodis konigi sian landon ĝis tiam tre malmulte, aŭ preskaŭ neniom konata al ni, farante multfoje en diversaj lokoj helpe de la interpretado de*



D-ro G. J. RAMSTEDT

*lokaj Esperantistoj, kvankam li sukcesis mirinde rapide ellerni japanan lingvon.

Li estis versence ideala Esperantisto kaj ĉiam estis preta helpi al ni en la movado. Ĉe multaj publikaj kunvenoj por la propagando de Esperanto en diversaj urboj li faris paroladojn, al kiuj ĉiam la publiko ŝatis aŭskulti kaj kiuj sekve altiris kutime grandan nombron da

aŭskultantoj. Ni povis esti ĉiutempe fieraj, havante inter ni tiel eminentan personon, finnan ministron al la Oriento.

Ĉar li posedis mirinde bonan Esperanton, lia ĉeesto inter ni estis efektive instrua kaj instiga. Sen ia flato ni povas diri, ke lia restado tre sukcese plibonigis la staton de la esperantista movado en nia lando en kvanto kiel ankaŭ en kvalito.

Nun li estas forlasanta por ĉiam mian landon, kies popolo, precipe esperantistaro, neniam lin forgeso. El la koro ni esprimas nian sinceran dankon al li, la unua Esperantisto-Ministro! Ĉion bonan kaj feliĉan!

海外報道

教育者エスペラント國際講習會

——大會直前ブタペストにて——

語學教育はエス語を以てすべきである！ エス語は短時日の講習に於ても實際に役に立つべきものである！ これを證明せんため萬國大會を控へた Budapest にて新しい試みの講習が催されることとなつた。即各國の語學教師を集め大會直前講習會を開き、直に大會に送り出してその應用を如實に體驗せしめ様とするのである。

主催は市役所並に國立高等師範學校。後援は Genevo の Instituto Jean Jacques Rousseau 時期は7月21日より8月2日の14日間。講師は Ĉe Metodo を以て有名な國際教育會委員の Andreo Ĉe 氏である。當局は特に好意をよせて會費無料、汽車割引は無論、食費補助の他外國人30名（15名 Es-tisto, 15名 Nes-tisto）を市の客賓として凡ての費用を補助することとした。資格は生徒としてエス語を解せざる専門の語學教師、又は學生として講習法を修得せんとするエスペランチストとなつてゐる。

この計畫が發表せらるるや俄然申込は殺到し締切までに152人17ヶ國に及んだ。

21日午前9時開講式。會場高くハンガリーの旗と交つて綠星旗が翻つてゐた。先づ司會者 Josefo Mihalik 氏 ハンガリー語とエス語で挨拶をなし、次で内閣書記官長 Julio Kroniss 男等の熱烈なる演説あり。講師 Andreo Ĉe 氏は一場の講演をなし『現在歐米に於ける外國語教授界では最も効果ある方法を探求しつつあるが、それはただエスペラントによりてのみ解決さるべきであつて、この14日間の講習に於てこの鍵を授けるであらう』と語つた。

講習は毎日4時間。彼のモットーは “Nur parolu forte, kurage kaj elegante” である。ただ會話のみによつて征服し様とする方法である。

最後には色々の試験をなし修學證書を渡されることになつてゐる。

此結果はエスペラント界教育界に Granda sensacio を起すべく、各國は競ふて視察員を派遣し、特に Instituto Jean Jacques Rousseau はこの結果について發表をなす由である。

Miss Esperanto 1929.

萬國大會では例により初日の夕國際大舞踏會を催す。その際出席の Samideaninoj から擇んで “Fraŭlino Esperanto” の尊稱を奉る。そしてこの選手權は翌年まで保存されることとなつてゐる。

處でお膝元の Budapest の雜誌に “Miss Esperanto 1929!” なる見出しも麗々しく次の廣告が出てゐる。

“Germana aŭtomobilisto, kiu venos al la kongreso per propra motorĉaro, deziras konatiĝi al 19-25-jara fraŭlino 160-165 cm. granda, por entrepreni komunajn aŭtomobilekskursojn dum kaj post la kongreso, eventuale ankaŭ gepatroj. Nur tiaj sportemulinoj, kiuj partprenos la konkurson pri “Fraŭlino Esperanto 1929” bonvolu sendi leterojn kun novaj tutstaturaj fotografiaĵoj al ~.

何と素敵で moderna な廣告ではないか。

瑞典政府は補助金を

瑞典に於けるエス語運動は益々確固となり瑞典教育會ではその會員に講習をなしたり、社會民主黨が萬場一致その支持を決議する等あつたが今度瑞典エスペラント教育聯盟主事 Ernfrid Malmgren と國會議員 Ernst Eriksson 等の盡力により多數の署名を得てエスペラント運動支持すべしの提案が Eriksson 氏によりて議會に提出された。それは政府委員會に廻され數週間の後次の様に答申された。

『委員會はエスペラント運動支持の爲補助金下附は適當なりと認む。よつて議會はエスペラント講習の爲 2,900 瑞典クローネ（約1600圓）の補助金の支出を協賛せられたし』と。

蓋し先に行はれた種々の講習殊に Andreo Ĉe 氏の講習の成功に鑑みたのであらう。

議會では議論の末委員會通りに通過した。就中最も熱心なる賛成者 Stockholm の市長 Carl Lindhagen 氏の如き些細な補助金ではあるがこれによつて ideala afero に議會は關心を示すことが必要である事を力説してゐる。

毎年せつせとやる請願は通ることは通るが其後どうなるのやら有耶無耶に葬られるごこの國と少し話が違ふ様です。

國際菜食主義同盟第七回世界大會

Internacia Vegetara Unio の第七回世界大會は7月7日より11日までチエツクスロバキヤの Steinschönau で開かれた。その代表は16ヶ國に及びその會計表はエス語で書かれてゐた。用語は獨逸語であつたが、凡て英語、エス語に翻譯された。9日夕には36人の労働者軍人より成る樂團が“Cavalleria Rusticana”をやつてのけた。和蘭の代表はオリンピック大會出場者中3人は菜食者、47人は禁煙家、42人は禁酒者であり、菜食者中には長距離競走にて覇を稱へた Nurmi が居た事を報告してゐる。

次回は3年後獨逸、多分文豪 Schiller で有名な Stuttgart になるだらう。

一夕ホテル“Merkantile”でエスペラントの夕を開いた。會するもの約400名。『菜食主義と日常生活』等有益な話あり。凡てこれはエス語に譯された。

其他歌や暗誦、十人の fraŭlinoj の象徵舞踊“Pomfloro kaj la Verda Stelo”があつた。

同盟會頭を始め居並ぶ面々はまのあたりエス語の効用をみせつけられ大いに感心してすぐにエス語を學びて之を實際に利用することを約したから、將來一層この同盟に於てはエスペラントが勢力を占めることとなるであらう。

宣傳は自働車で

英國エスペラント協會は會員から立派な自働車を寄贈された。一方エスペラント、他方國際語の廣告が空色の地に金と黒の字で浮き出してゐる。

これは非常に役に立ち、今迄不可能であつた多くの事が出来る様になつた。會の訪問、孤立した會員の訪問、本の賣捌等に今迄よりもずつと能率的に同時に宣傳的となつた。——英國エス協會の8月月報はその自働車の寫眞(扉に Esperanto The Second Language For All と書いてあるのが見へる)を入れて報じてゐる。

其他教育者の大會とエスペラント

★Genevo に於て7月25日より8月5日迄世界教育協會の第3回大會が開かれ、約5000の教育者が集つた。

Privat 博士はその會の顧問で“Esperanto en la servo por edukado al repacigo de la popoloj.”なる題で講演をなした。

TAGE (エスペランチスト教育者國際協會)の仕事及指導には Dietterle 博士が之に當られた。

★15萬の會員を擁する獨逸教育協會ではその大會に於て左の決議をなした。

『教育界へ世界補助語(エスペラント)の採用を努力すること。』

★丁抹の首府 Helsingör にては8月8日-21日まで Internacia Laborrondo por Nova Edukado の第5回大會が開催せられエスペラントが用ひられることとなつてゐる。

オーストリアのエス語國家試験

オーストリーにては早くよりエス語の國家試験を爲してゐるが最近の統計は次の様である。

90名(内男子67, 女子23)は教員檢定を、34人(内男子21, 女子13)は學力檢定を通過してゐる。

出身すれば、大部分の85人はお膝元の Wien, 南奥太利17人等。

職業別にすれば20-國民學校教師、17-語學教師、2-校長、2-視學、2-牧師、9-軍人、5-法律家、2-大學生、15-中學教師、1-商業學校校長。等々。

待たるる SAT のエス-エス辭典

SAT發行のエス-エス辭典については嘗て本欄に於てお知らせしたが、最近の“Senaciulo”誌によれば何しろ四人の著者の議論が多く、尙も手紙のやりとりによつて原稿が出来るので約束の期日になつても原稿が完成しないので大分弱つてゐる様である。殊に最も大切な Grosjean-Maupin 氏が最近ひどい眼病を患ひ一切 verka laboro を禁じられてゐるので嚴しい催促も出来ぬ模様である。

現在までに印刷されたのはFまで120頁である。しかし漸次好調に向ひ毎週25-30頁宛印刷所に廻しつつあれば今年一杯に終る豫定である。

この Vortaro に衆望の懸つてゐることは、5月末までに既に1354人の拂込済豫約者があることにても知れる。その金が39,591.90 佛法、借りた金が17,301.50 即 56,893.40 佛法を擁して財政的には全く不足なしであるから此上は一日も早くその完成を鶴首して待つばかりである。

内地報 道

第十七回日本エスぺラント大會豫報

いよいよ本月21・22・23の三日間東京にて

大會日程

★第一日 9月21日(土曜日)

12時 開館

14-16時 大會發會式:

- 1) 準備委員長挨拶 2) 大會々頭、副會頭、幹事、書記選舉 3) 大會々頭挨拶
- 4) 各團體代表挨拶 5) 祝電祝辭朗讀

16-17.30時 Interkonatiga Kunveno.

(以上會場帝國教育會館)

17.30-19時 晚餐會(費2圓50錢)

19-22時 餘興(劇・音樂其他)

注意 (晚餐會へ出席されない方でも餘興の見物は差支へございません)

★第二日 9月22日(日曜日)

9-11時 各種分科會

11-12時 Universitato (講師交渉中)

13.30-17時 大會協議會、分科會報告、日本エスぺラント學會維持員會

19-22時 Universitato

(以上第一日17時より會場多賀羅亭)

★第三日 9月23日(祭日)

9-11.30時 雄辯大會(東京學生エス聯盟主催)——會場: 丸之内鐵道クラブ

12.30-18時 造足(鶴見花月園へ)

19-23時 銀座散策

★注意★

★前月號に挿入しました参加申込書はなるべく早く御送附下さい。勿論参加申込は當日たる第一日の正午からも受付けますが種々の準備の都合もありますから。特に第一日の晚餐會に出席さるゝ方は學會へ本月15日迄に到達する様申込書を御送附下さい。

★鐵道割引券は通用期間は9月11日から10月3日迄です。(割引切符の買へるのは9月11日から9月23日迄の間です)。延人員百人にならぬと鐵道省からその不足人數だけの五十哩の賃銀を徴収されますからぜひ一人でも多く御知り合ひの方に活用して戴く様御盡力下さい。又一人でも何枚も使用できますから(例へば横濱などから東京へ來られる方々は大會中もその以前でも毎日でも使用できる)一枚でも餘計使用して下さい。但し右割引券は必ず

往復切符を買はねばならぬのです。そして鐵道省線の各驛及内地の連帶鐵道、軌道線各連帶驛のどこでも買へます。行先は東京、新宿、上野、兩國橋、鶴見の五驛に限るのです。

第三日の鶴見遠足には當方で一まとめにして割引券で切符を買ふ事にしますから御参加の方々は大會中その旨御申出下さい。

★分科會はまだきまつてゐませんが別項藥學分科會は正規の手續をすませて決定しました(本年初めて成立)。

★晚餐會: 第一日の晚餐會は上記の如く2圓50錢の會費で緊縮流行の今日少し高いかと思ひましたが餘り内容貧弱でもと思つて皆様に奮發して頂く事にしました。殊に當日は新聞記者も招待して徹底的に demonstracio をしたいと思ひますから奮つて御参加下さい。参加者が少いと propagando の efiko が少くなりますから。猶この晚餐會を以て長年滞日の上我エス語のため努力された芬蘭公使 Ramstedt 博士の送別會とし又在米須々木要君新婚祝賀も併せて行ひたいと思ひまして緊縮料理でなくしたわけです。猶晚餐會に出席されなかつた方も大會参加證を御持ちの方はその晩の餘興を御覽下さる事は一向差支へございません。

★會場: 所在地は(地圖參照)

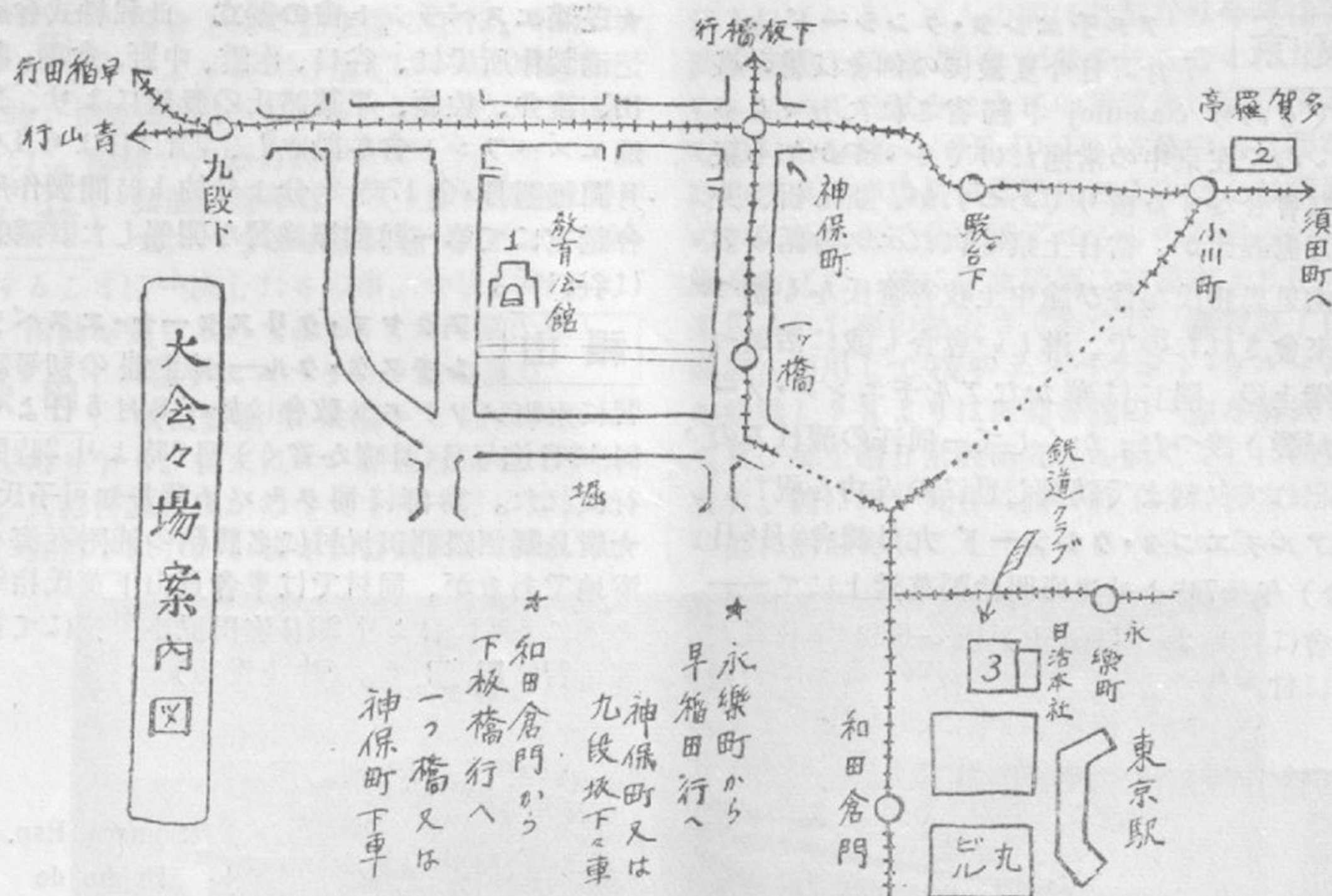
●帝國教育會館——神田區一ツ橋(東京驛降車口より電車線路に沿ひ北側へ折れると永樂町停留所(市電)があります。そこで早稻田行にのれば乗換なしで神保町まで來ます。神保町から徒歩の方がよく判りませう)。——第一日正午より夕方迄の會場。

●多賀羅亭——神田區淡路町(小川町市電停留所から須田町の方へ半町左側の三階建です)。——第一日晚及第二日全部の會場。

●丸之内鐵道クラブ——東京驛脇の永樂町市電停留所脇の日活本社横手テニスコートに沿ひ奥へ入る左手の木造(丸之内ホテルの裏)。——第三日午前中の會場。

★宿舎(合宿の)

●日本青年館——東京市四谷區明治神宮外苑内(省線電車信濃町驛下車又は市電青



山四丁目交番横を北へ真直に入る)。

●宿泊費——一泊一圓 (食事は別に朝20銭 晝2 銭夕30銭で希望により賄ふ) すべて合宿掛で御世話致しますから、合宿希望の方はなるべく早く参加申込下さい。21日晩より合宿希望の方は大会々場から掛が御案内致します。21日より以前に宿泊希望の方はその旨9月10日迄に申込下

されば當方より適宜御返事致します。22日以後の宿泊もお世話致します。費用は上と同額。

★薬學分科會：薬學分科會は特に九月廿日午後五時半日本橋區海運橋際(白木屋の後方)開運ビルデング内の『興樂』で開きます。(會費二圓位) 薬學關係者の出席を乞ふ。

明治薬専 SOMERA HEJMO

8月7日より約10日間明治薬専エスぺラント部の有志(倉池、高橋香、小林、清水、高橋六郎、榛葉)は北輕井澤の吾妻館に合宿をした。毎日午前中は輪講をし、午後からは植物採集、會話の練習、ビンボン、近傍の探索に過した。夕食後はランプをしたり讀書をした。夜、床に這入つてからは babiladi した。

十三日には、波多野氏が來られた。次の日は、波多野氏と共に吾妻村の方に迄、植物採集に出た。

北輕井澤の思ひ出は、雷と稻妻、淺間山、噴煙等々。

共に學び、共に遊んだ10日間を若い意氣の合つた、明薬エス部の有志と共に思ひ出でにして、この合宿を終り、東京にへ歸つた。最後に Somera hejmo の建設を毎年の行事として永久に續けられる様に祈る。(榛葉記)

第六回青森縣下エス大會

★黒石町に於て・八月十一日★

大正十四年學會の後援の下に大成功をおさめた青森縣下エスぺラント大會は8月11日黒石町黒石尋常小學校に於て第六回を開いた。

大會のプログラーモは次の通り。

1. 委 員 會 12 時より
2. 總 會 13 時より
 - a. La Espero の合唱 b. 開會の辭
 - c. La Vojo (Zam.) の朗讀 d. 地方代表の報告 e. 討論 f. 委員會報告
 - g. 賓客の祝辭 h. La Tagigo の合唱 i. 閉會の辭
3. 親睦晚餐會 16 時より
4. 講演と演奏會 19 時より
(講演者：秋田雨雀氏、栗屋の諸氏)
5. 記念撮影

東京

アルヂエンタ・ケンシード

7月27日今夏最後の例會は暑い盛りでもあり ĉiamuloj 中歸省された方々も多い、ので在京中の常連だけでさゝやか乍ら親密な會合をする積りであつたが、折も折、井上万壽義氏が、當日上京されたエス會話の名士由里忠勝氏を伴ひ途中土岐善廣氏をも誘つて來會されたので、淋しい會合も俄に活氣づき階上の隅には華かなアルヂエンタ・ソーノが響き渡つた。かくして一同汗の流れるのも忘れて夕刻まで談笑し思はぬ成功を祝た。

★アルヂエンタ・ケンシード 九月總會9月6日(金)午後7時より銀座明治製菓階上にて——例會は 14, 28 兩日(土)後3-6時 21日は大會に付き休會。

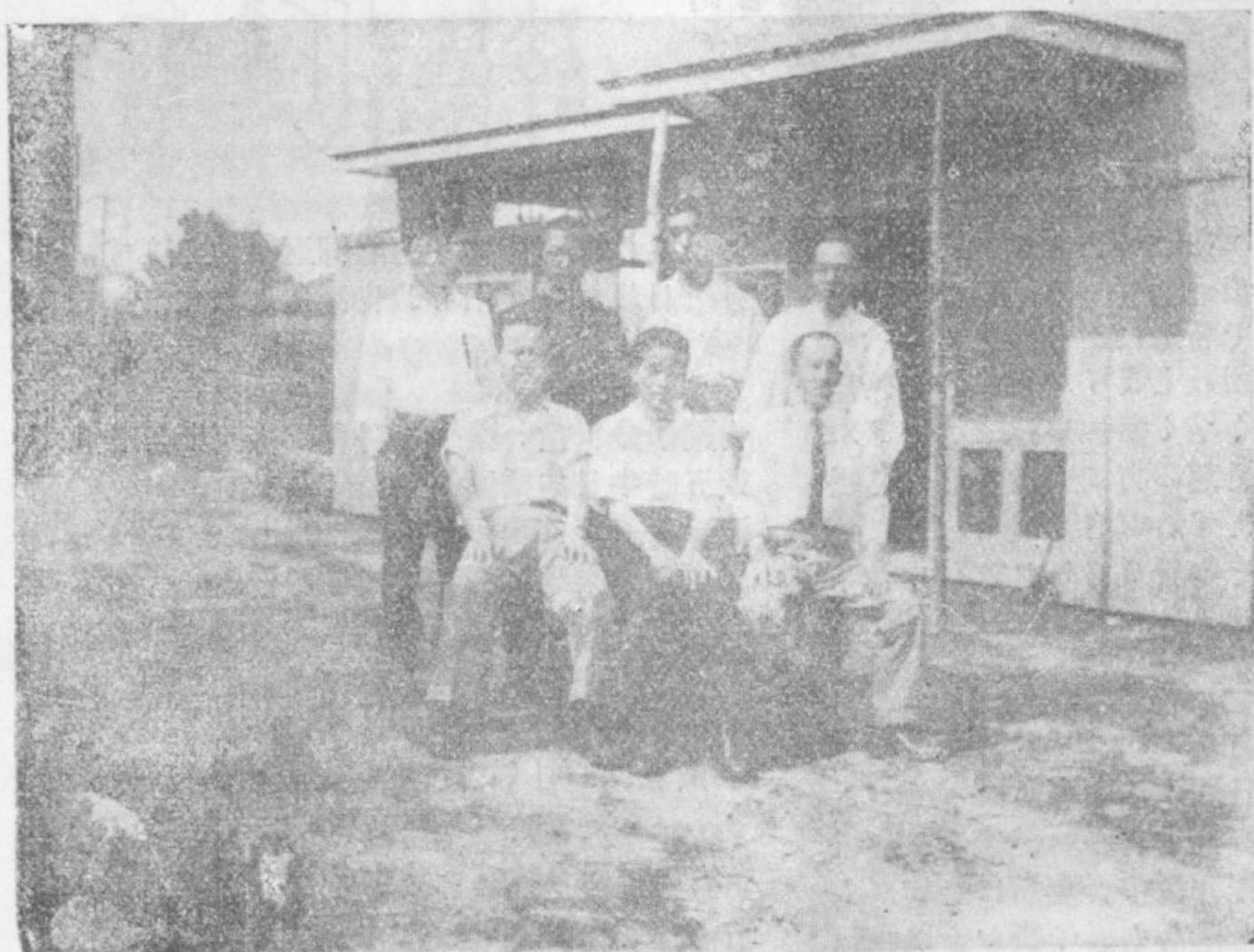
★芝浦エスペラント會の創立 此程株式會社芝浦製作所では、谷口、南雲、中野、倉池、牧田、淺井、佐藤、平賀諸氏の發起により、芝浦エスペラント會を設立し、7月1日より1ヶ月間毎週月・金 17時 20分より約1時間製作所會議室にて第一回初等講習を開催した。講師は谷口氏。

福山

フクヤマ・クリスターナ・エスペランタ・クルーボ

主催の初等講習は東町メソヂスト教會に於て8月5日より同13日迄毎日(日曜を省く)朝9時より2時間行はれた。講師は同クルパノ藤井知可子氏。

★廣島縣沼隈郡田尻村は名勝軒の浦附近海水浴地であるが、同村では學會員山下茂氏指導の下に8月10日より20日迄田尻小學校にて初等講習に開催した。(片上氏報)



Somera Esp.
Hejmo de
Meiji
Farmacia
Kolegio

北輕井澤での明治樂事の Hejmo
左より前列
波多野、倉地、榛葉、
後列
小林、清水、
高橋(六)、
高橋(香)。

神戸

7月25日より毎週月金土 19.30-21時 Y.M.C.A. 屋上にて夏休講習を開催、講師は安田龍夫氏。(右田氏報)

愛知

愛知縣瀬戸町深川商業實修學校では7月12日夕同校生徒の爲にエスペラント講演會を開き、講演者松本重一氏は『エスペラントの現状』と題して同語の誕生より現状に至る迄約2時間餘に亘つて熱辯をふるはれた。★當町喫茶店ヘルヘイモ・みどりにはメヌーオをエス語にて發表。室内は綠星旗にて裝飾、エスペラント氣分を漲らせてゐる。

松山

5月に開催された講習會終了後、松山綠星會の名稱を愛媛エスペラント學會に改稱した。★7月25日より1週間松山商業學校にて同校生徒8名に講習開催、講師山本正雄氏。★8月4日より1週間伊豫郡郡中町尋常高等小學校にて海南新聞社郡中支局後援の下に講習會を開催した。講師は草地哲氏。猶郡中エス會設立の計劃中この事。★7月25日発行の校友誌『松商』に『エスペラントに就いて』と譯文二篇掲載。山本正雄氏。★9月上旬松商エス會發會式を舉行し會長に教頭高山氏を推戴する由。(愛媛エス會報)

上田

學會上田支部主催の下に、8月16日より同22日迄(7.30-9.30時; 19-21時) 初等講習が上田毎日新聞社にて開催された。講師竹内藤吉氏。

弘前

弘前高等學校では9月新學期よりエスペラント研究會を正式に發會することに一決したとの事。今後のめざましい活動を囑目されてゐる。(大河原氏報)

秋田**横手エスペラント會の創立**

秋田縣南の大横手と誇る大きな町であり乍ら、從來はエス語運動極めて不振で、只杉村謙吉氏があつて十年一日の如く熱心に宣傳されたが、後中田勝造氏が同地に赴

任されてから、二人の間に計劃なり今夏横手圖書館樓上に講習會が催されることになつた。初めての試みとしての講習會に參集するもの31名を數へ、8月10, 11, 12日の三日間20時の間學會評議員伊藤巳酉三氏の熱心な講義の下に最後まで全部講了せるもの24名の好成績をあげた。殊に伊藤講師は室蘭市より態々來駕された程の熱心さであつた。講習終了後此期を利用して横手エスペラント・クルーボを組織し9月よりは同圖書館の一室を解放して貰ひ毎土曜日常設研究會を開くことに決定した。因に同研究會は講習終了者を會友とし一般に對し會員として自由に入會せしめ、之



Esp. Kurso en Jokotemaçi, Akita-ken,

秋田縣横手町での講習——1-大山 2-伊藤講師 3-小田島
4-杉村 5-吉澤 6-山崎 7-中田

が指導には中田、杉村兩氏が當るこの事。

猶同エスペラント會の幹部は次の如く決定した。(中田氏報、寫眞參照)

名譽會頭 秋田縣會議長 片野重修
幹事長 秋南新報主筆 大山順造
幹事 東京齒科醫學士 吉澤郁二
横手補習學校教頭 山崎龍治
縣立秋田圖書館司書 中田勝造
縣立衛生試驗所藥劑師 杉村謙吉
駒澤大學出身 小田島徹童

戸畑**明紡エスペラント會の創立**

此程同市に工場を有する明治紡績合資會社に同社の計畫部長である井上正盛氏の御盡力により新らしくクルーボが生れた

明紡エスペラント會

福岡縣戸畑市明治町明治紡績合資會社内 代表者 井上正盛氏

臺北

臺北エスペラント會々長杉本良氏8月10日付を以て臺灣總督府文教局長(二等)に御榮進、近く會員一同集會祝賀會開催の由。

エスペラントヘイモ案内

千葉 醫大 フォリアーロ・クルーボ 主催

此度吾々クルーボの多年の宿望であつたヘイモを房州勝山本學臨海實驗所に於て開き、エスペラントの練習と併せて會員相互の親睦

を計らうと思ひます。十日間を寢食を共にして胸襟を開いて談じ、時にはトランプ等に興するも面白いでせう。又心ある人は附近の水生物の研究をされるも有益でせう。又健脚の士は鋸山・北條・小湊等にまばれるもよからん。兎に角十日間を愉快に且つ有益に送らうではありませんか。

場所：千葉縣勝山町外(安房勝山驛下車)

千葉醫大附設臨海實驗所

期日：九年一日より十日間

費用：食費一日一圓見當(場合によつてはもつと安くなります)、千葉・勝山間汽車賃一圓十八錢(二割引九十五錢)各自に持参すべきもの：

一、日用品 二、水泳具 三、寢具(一切實驗所に設備してあります。毛布のある方は持参された方が便利でせう。) 四、書物 五、娯樂物(トランプ、麻雀等)

注意：クルーホ以外の方の御参加も非常に歓迎します。



Bonveniga Kunveno por Prof. Asada kaj S-ro Işimaru en Hakodate.

函館の歓迎會 ×印淺田一博士、二人目石丸鎮雄氏、三人目齋藤顧問、向つて坐つてゐる二人目の人山脇院長、其背後は小森會長。(此銅版は函館毎日新聞寄贈)

新聞雜誌とエス語

- ★京大新聞(5月23日) 同
- ★日本の醫界(19卷20號) トピック欄へ、長一雄氏。
- ★みやこ染タイムス(7月號) 本誌上にて大橋介二郎氏の「綠星旗の作り方」の轉載
- ★自由聯合新聞 エス文欄あり
- ★海員(7月號) 「海員と國際語との關係」美技多比呂志氏寄稿
- ★函館新聞(7月20日) 淺田博士の來函についての記事。
- ★長崎の青年(6月15日) Nagasaki Ekzotika Havenurbo—Verda Hospitalo, Festo por Knaboj—Karlo

★學士會月報(7月號) 新國際語ノヴァー—小坂狷二氏

★海南新聞(愛媛縣)

8月1日 國際語エスベラントの提唱
山本正雄

8月2日 エスベラントか英語か
ジエームス・デ・セーヤース

★ 豫 告 ★

東京學生エス聯盟秋季總會

9月14日(土) 午後2時より本郷區千駄木町日本醫科大學にて(費用70錢)。大會出演の一部豫行其他相談もありますから各校から澤山御出席下さい。

Kvara Oficiala Aldono に就て

川 崎 直 一

これわ *Oficiala Bulteno de la Esperantista Akademio*, kajero 1. junio, 1929. にのつてい
る。(この Bulteno に Behrendt が新に編ん
だ『Esperanto 文法 16 條』に對する Lipp-
mann の批評や、Akademio によつて本年
premiu された verkoj についての説明なども
あるが、これらについてわ誰か他の人が紹介
せられることと信ずる)。この listo を見る
と Ekzakt-a, exact (qc.); exact (math.);
genau; tute precize ĝusta, tute konforma al
la diro のごとき體裁になつてゐる。即ち従
來わ Esperanto での difino がなかつたので
あるが、今度わ全部でわないがある種のもの
にわそれがつけてある。(ある種のものさわ
おそらく naciaj lingvoj の譯だけでわ正確に
意味を示すことができない場合であろう)。
Naciaj lingvoj による譯もかなり丁寧な、そ
して十分注意されたものになつてゐる。これ
わ従來の經驗の結果にもよることであるが、
Akademio の普通辭書部主任の Grosjean
Maupin 氏の苦心のほどがうかがわれる。
Akademia Listo わ alfabeto ordo になつてい
るのであるが、どんな種類の radikoj が認め
られたのかを知るために、またそれらの記憶
の便宜のために、radikoj を若干の部門に分
類して、これらに日本語譯をつけたものを
つぎにかかげることにする。(日本語譯わ學會
編、『新撰エス和辭典』の譯によつた。ただ
しこの辭典にないものわ私が譯をつけた)。
kontinu-a* のごとき肩に*があるのわ、この
radiko わ Zamenhof によつて使われたこと
のあるもの (Akademio の listo において記
されてある)。

(A) 形容詞的語根

Aktual-a (現實の), Amar-a (苦しい), Aŭto-
nom-a (自律の), Ekzakt-a (正確の), Inert-a
(無活動の, 無精の), Intens-a (強烈な),
Invers-a (アベコベの), Kalv-a (禿げた),
Kontinu-a* (連續的の), Plur-aj (若干の),
Sekur-a (安全の), Valid-a (有効の)。

注意: 形容詞的語根としてわこれら以外に
Imun-a, Solvent-a があるが他の部門に入れ
ておいた。

参考: 『Amara なんかいらない maldolĉa
で十分だ』といつた人があるけれど、Amara

わ maldolĉa のある場合でわあるが、maldolĉa
わかならずしも amara でわない。maldolĉa
わ figure に使えるが、amara わそうわ使え
ないこともないがむしろすくない。『新撰エ
ス和』にわ Sekur-a わ載つていない。

(B) 動詞的語根

Abstin-i (節制禁欲す), Establ-i (建設す),
Inaŭgur-i (開始式を行う), Inund-i (氾濫す),
Klaĉ-i (悪口す, 誹謗す), Kluk-i (コツコツコ
と啼く牝雞), Knar-i* (キーキー鳴る, 軋る音),
Koincid-i (符合す), Kolizi-i (衝突す), Konker-i*
(征服す), Kverel-i* (喧嘩す), Lament-i* (慟
哭す), Murd-i (殺害す), Narkot-i (麻醉さす),
Provok-i* (挑む), Rezist-i (抵抗す)。

注意: 動詞的語根としてわこれら以外に
Deriv-i, Konsekr-i, Munt-i, Redukt-i がある、
他の部門に入れておいた。

参考: 『新撰エス和』にわ Kolizi-o となつ
てゐる。

参考: Inaŭguraci-o といふのがすでに
oficiala であるが、今回また Inaŭgur-i が公
けに採用された。ちようど Evoluci-o にたい
する Evolu-i のようなものである。簡単な
そして derivado に便利な形が、たさい
internacia であつてもながたしく derivado
に不便なものに代つてゆくのを Esperanto の
進化の大勢である。これに似たのが Abstin-i
であるが、Abstinenc-o わ oficiala でわない。
『新撰エス和』にも載せられている。Kon-
kir-i でなく、Konker-i が公けに採用された。
Murd-i わ Mortigi のある場合でわあるが、
然しこの語根があつたほうがよい。Rezist-i
にわ résister; to resist; widerstehen; wider-
streben, sich widersetzen さあつて別に『電
氣』に限るといふような注意がないから、一
般的に使つてさしつかえないわけである。
『新撰エス和』わ“抵抗す[電]”とやつてい
るが……

(C) 助 辭

Bis (もう一度)。

参考: これわ従來から多くの教科書、文法
書などに載せられてわいたが、oficiala でな
かつたので肩身がせまかつたのであるが公
けに採用された今日以後わ堂々と使われてさ
しつかえのない身分となつたのである。

Bis, bis! — kriis ĉiuj aŭskultantoj post ŝia ĉarma kantado — 小坂『エスペラント助辭一覽』のようなのがこの用法であるが、しかし *Oficiala Gazeto Esperantista*, junio 1909, p. 26 にでてゐる *Cirkulero 20-a (bis)* すなわち『廻狀第 20 號乙』のごとき用法もきわめて面白いものであるから、現在わまだ一般的でわないにしても、ぼつぼつこつこつうように使つていききたいものと思われる。

(C) 文法用語

Deriv-i (派生す), *Kondicional-o* (假定法), *Plural-o* (複數)。

参考: 以上 3 語根さも *Akademio* の *listo* にわ (gram.) と斷つてあるから、文法上の場合にのみ使わべきである。『新撰エス和』にわ “誘導す, 轉來さす” とあつて別に (文法) と斷つていないが……

(D) 動物

Lumbrik-o (みみず)。

参考: 日常用いられる *ideo* や *aĵo* の語根わたいていもう揃つてゐるのである。これから *oficialigi* されるのわ主として *teknika* なもの、そのうちでも動植物などの名前が多いと思われる。が今回わ動物わなつた一つである。

(E) 植物學

Korol-o (花冠), *Lob-o** (裂片), *Medol-o** (髓), *Stamen-o* (雄蕊)。

注意: *Lob-o*, *Medol-o* わ *Akademio* の *listo* にわ *lobe* (anat., bot.), *moëlle* (anat., bot.) となつてゐる。でこの分類でも二箇所に入れておいた。

参考: *Stameno* わ今回やつさ *oficialigi* したのであるが、*Pistil-o* (雌蕊) わすでに *Dua Oficiala Aldono* によつて一足さきに *oficialigi* している。

(F) 植物の名

Alc-o (蘆薈), *Gencian-o* (りんごう), *Genist-o* (えにしだ), *Oleandr-o* (夾竹桃), *Plantag-o* (おほばこ草)。

(G) 解剖

Aksel-o (腋下), *Lob-o** (葉), *Medol-o** (髓), *Orbit-o** (眼窩)。

注意: *Lob-o*, *Medol-o* が植物學にも用いられることわすでに注意した。Orbit-o も *Akademio* の *listo* にわ *orbite* (anat., astr.) さある。

(Ĝ) 醫學

Albin-o (白子(兒)), *Gemel-o* (双生兒), *Hipnot-o* (催眠狀態), *Inflam-o* (炎症), *Splen-o*

(氣鬱病), *Kinin-o** (キニーネ), *Imun-a** (免疫の)。

参考: *Kabe*, *Vortaro de Esperanto* にわ *Albinoso* となつてゐるが、*os* わ不用のものである。ただあまり短いもの例えば *pato* (フライ鍋) と混同してしまうが、*Albin-o* としてもなんらさしつかえがないから、*os* をさつたのが採用されたのである *Gemelo* を *du-naskito* とも言つてゐる。

(H) 化學

Anilin-o (アニリン), *Indig-o* (藍), *Kali-o* (加里), *Karbon-o* (炭素), *Klor-o* (鹽素), *Natri-o* (ナトリウム), *Oksid-o* (酸化物)。

(Ĥ) 物の名

Alen-o (刺針), *Bireto* (法冠), *Cevron-o* (たるき), *Dok-o* (船渠), *Fagot-o* (大堅笛), *Grund-o* (地盤), *Helic-o* (螺線), *Ham-o* (腐植土), *Kastanjet-o* (四ツ竹の類), *Lamen-o** (薄片), *Lat-o** (割板), *Lens-o* (レンズ), *Nas-o** (魚梁(子)), *Panel-o* (鏡板), *Paŝtel-o* (彩色聖筆), *Pelerin-o* (肩マントル), *Pioĉ-o* (つるはし), *Pivot-o* (輻軸), *Podi-o** (物見臺, 高段), *Ŝpat-o** (スベード), *Munt-i* (組立つ)。

参考: *Grund-o* わ *terrain* (au point de vue de sa nature, de sa composition) であつて、哲學などにわ使えない。*Munt-i* わ *monter* (méc., joaill.) とあるから、普通日常に使う動詞でわない。*Ŝpat-o* わ『新撰エス和』にも *Millidge*, “*The Esperanto-English Dictionary*” にも載つていない。

(I) 學問の名

Pedagogi-o (教育學)。

(J) 藝術の名

Akvaŝort-o (銅腐蝕版), *Ceramik-o** (制陶術), *Plastik-o* (塑造術)。

(Ĵ) 人をあらわすもの

Abiturient-o (得業士), *Kreditor-o* (貸主), *Pedagog-o* (教育學者), *Indiĝen-o* (土人), *Lord-o* (イギリスの卿), *Patrici-o* (古ローマの貴族), *Pleb-o* (古ローマの平民), *Regent-o* (攝政), *Sacerdot-o* (カトリック教の司祭)。

参考: *Kreditor-o* わ商業上の術語である。*Pedagog-o* わ *Pedagogiisto* とも言える。*Regento* を *Rhodes*, *The English-Esperanto Dictionary* にわ *perreĝo* など譯したが、*Regento* がよい。

(K) 天文學

Diluv-o (大洪水), *Orbit-o** (軌道), *Zefir-o* (和風, 軟風)。

注意: *Orbit-o* わ解剖學にも使う。

参考: Diluv-o わ『新撰エス和』にわ(ノアの洪水)とあるがそれに限らない, 一般的に(大洪水)に使う。

(L) 宗教, 神話

Amor-o* (キューピッド), Konsekr-i* (供える, 清める)。

参考: Konsekri わ宗教上の術語。

(M) 數學

Dimensi-o (次元シヨン), Later-o (邊), Volumen-o (體積), Redukt-i* (約す)。

注意: Later-o, Redukt-i わ數學上の術語。Redukt-i わ化學にも使う。

(N) 哲學

Empiri-o (經驗), Intelpekt-o (知能)。

注意: Empiri-o わ scienca aŭ filozofia kono akirita per sperto とある。

参考: Inteligent-a から Inteligent'o を導いて Intelpekt-o の代用をしている人もある。

(O) 商業

Merkat-o (市場), Trafik-o (交通), Uzur-o (高利), Var-o (商品), Solvent-a (支拂能力ある)。

注意: Merkat-o わ sfero de vendo, kampo de komerca agado pri aparta branĉo (neniani signifas placon aŭ ejon). Solvent-a わ商業上の術語。

参考: (商品) わ komercaĵo を使っていたのであるが、これわその意味があまりにばくぜんである。kargo (oficiala でわないが) わ主として(船荷)に使うようである。Trafik-o, Var-o わ『新撰エス和』にわ載っていない。

(P) 雜

Bombast-o (誇大の言), Fikci-o (假作物語), Hegemoni-o (霸權), Indeks-o (索引), Komision-o (委員會), Plag-o* (災禍), Skem-o (圖式), Stipendi-o (奨學金), Subvenci-o (政府の補助金), Viz-o* (査證)。

参考: 『新撰エス和』にわ Komisiono = Komitato としてあるが同じものでわない。Akademio の listo にわ aro da personoj komisiitaj por esplori ian difinitan demandon aŭ plenumi ian difinitan taskon とある。Kabe, Vortaro de Esperanto にわ Komisio に 1. Komisiita af-ro, 2. Komisiitaro とあるが、1. わこれでよいが、2. わ感心しない。ぜひ Komisiono があらねばならない。

この 118 の Kvara Aldono をみて讀者わ『なんだ、つまらない、ありふれたものばかりじゃないか』とゆわれるかもしれない。がこのありふれたものが——すなわちありふれるようになつてから——oficialigi するのであ

る。Lingva Komitato kaj ĝia Akademio の職務わ『konservi la fundamentajn principojn de la lingvo kaj kontroli ĝian evolucon』であつて、強制的に、專制的に民衆を壓迫するものでわない。言語を進化さすものわ民衆自身である。ただし民衆わ適當な指導者の忠言を忘れてわいけない。すなわち『言語の進化』を正常であらしめるためにである。そしてその正常に進化したものを Lingva Komitato が oficialigi するのである。だから Lingva Komitato に従うのわ民衆自身に従うことである。『新撰エス和』と Kvara Aldono の語形やその譯の範圍などに多少ちがつているのを注意しておいた。しかし誤解のないようにさらに注意をしたいのわ、このことわけつして『新撰エス和』が不完全であるさゆうこととわない。『新撰エス和』と Kvara Aldono の發表以前に編纂されたもので公用語以外の (Tria Aldono まで) のものにわ、もさより各辭典を参照して比較的適當な語形や譯を與えられたのであるが、公用語以外のものわ要するに決定的のものでわないのであるから、今匣決定された Kvara Aldono と多少くいちがいができているのわむしろ當然である。

普通使われている radiko で今回の Kvara Aldono でも oficialigi されなかつたものがかかなりまだある。V の字のついたものをすこし拾つてみるさ vagino (腔), vakcini (種痘す), valnto (時價), variacio (音樂の變調), など。

(1929 年 8 月 10 日 15 時)

上記川崎氏の報告の如く Kvara Aldono がでましたので早速會員名簿へ第 27-28 頁『新撰エス和辭典附録』として挿入しましたから切取の上おもちの『新撰辭典』へ alglui して御保存下さい。今後發賣の同辭典には附録として挿入します。(學會出版部)

川崎君へ: ★ 1) derivi は文法以外に數學化學に使用して差支へないがと思ふ。2) komisiono = komitato は Bennemann のエス獨辭典の説を採用したもの。nuanco の違ひや多少の使ひ道違ひで語彙の増大する事は好ましくないさ云ふ日頃の持論で Bennemann の説をえたりかしこしと採用したもの。然し大勢は合成語より單一語へゆき sinonimoj もごしごし採用されてゆくらしい。日本語の「鳴く」が murmuregi, muĝi, graŭli, bleki, grunti, miaŭi, kokeliki, kluki, kveri, graki, kvaki, pepi, ĉirpi, kanti ……と。さてもエス語も日本人には六ヶ敷いですね。(岡本)

エスペラント初等講義

〔第九講〕

LA MANGADOJ 〔食事〕

maten- (tag-, vesper-,) mangō 朝(晝、夕)食

manĝoĉambro 食堂

manĝotablo 食卓

tablotuko テーブル掛

buŝtuko (manĝotuko) ナップ

telero 皿

forko フォーク

kulero 匙

glaso コップ

supo スープ

bulĵono 羹

konsomeo 濃き肉スープ

julieno 肉汁に野菜を入れて煮たスープ

fiŝo 魚

salmo 鮭

truto 鱒

karpō 鯉

haringo 鯡

angilo 鰻

kortbirdo 家禽

kokido 雛雞

anasido 家鴨の雛

ansero 鴈鳥

meleagro 七面鳥

kolombo 鳩

taso 茶碗

plado 大皿、料理の品

pokalo 盃

kafo コーヒー

teo 茶

ĉokolado チョコレート

sukero 砂糖

salo 鹽

piĉro 胡椒

lakto 牛乳

ovo 卵

ŝinko ハム

pano パン

butero バター

fromaĝo チーズ

deserto 食後の菓子等

viando 肉

rostita bovaĵo ローストビーフ

bifstekō ビフテキ

kotleto カツレツ

kolbaso 腸詰

legomo 野菜

braziko キヤベツ

pizo 豌豆

fazeolo 隠元豆

fabo 蠶豆

lento 扁豆

asparago アスパラガス

terpomo 馬鈴薯

spinaeo ホウレン草

napo 蕪菁(カブ)

makaronio マカロニー

En la mateno, post kiam mi leviĝis, vestiĝis kaj min lavis, mi trinkas unu aŭ du tasojn da kafo, kelkafoje ankaŭ tason da teo aŭ ĉokolado, laŭ plaĉo.

【説明】 lev'igi 起る、起上る、別の言葉で el'lit'igi (離床す)と云つてもよい。目を覺す意味での「おきる」は vekigi, sin lavi 「自らを洗ふ」は「體を洗ふ」(sin bani 浴す)意味でなく只顔を洗ふこと。vest'igi 着衣する、こゝでは言ふ迄もなく寢衣から着換へることを云ふ。trinki は凡て流動物を飲む場合に用ひられる。之に對し drinki にはアルコール性の飲料をのむ意味が含まれてゐるから、意味の重複を避けて drinki vinon, bieron 等とは言はぬ。この場合には必ず trinki を用ふる。taso da ……の量が茶碗一杯。taso de (por) は何々用の茶碗。kelk(a)-foj'e 時には laŭ plaĉo その時々好みによつての意。

Kaj poste mi manĝas peĉon da pano kun butero kaj iom da frukto de la sezono: pomon, piron, bananon, orangon, persikon aŭ persimonon.

朝私は起きて着物を着かへ顔を洗ふ。コーヒーを一二杯飲みます、時には又お茶かチョコレートを好みによつて一杯飲みます。

そして後私はバター付のパンを一切れとその季節の果物例へば林檎、梨、バナナ、密柑、桃、柿等を少し食べます。

La tagmanĝo estas prenata kutime inter la dekunua horo kaj la unua horo. Tiuj, kiuj ne manĝas hejme, iras al unu el la multaj restoracioj, kie oni povas manĝi laŭ sia elekto el la menuo aŭ laŭ la fiksita prezo.

La servado tie estas farata de kelnerinoj aŭ de kelneroj. Ordinare oni mendas supon, fiŝon, bovviandon kun kukumetoj, aŭ bifestekon kun frititaj terpomoj, aŭ terpomoj kuiritaj en ŝelo, legomojn aŭ salaton, konfitaĵon; deserton aŭ fromaĝon. Kun tiu ĉi manĝado, oni trinkas pokalon da vino ruĝa aŭ blanka. Por fini, oni prenas tason da kafo kaj oni fumas cigaron aŭ cigaredon.

【説明】 preni tagmanĝon=tagmanĝi 晝食する。kutime 常例として、習慣として。restracio 飲食店。laŭ sia elekto 自分の選擇によつて。menuo 献立表。laŭ la fiksita prezo 定つた値段で(色々取り合せたものを注文する)。servado 給仕。tie=en la restoracio. kelnero ポーイ、～ino 女給。ordinare 普通。mendi 注文する。por fini 終へる爲に、此種の por の用法は吾々の屢々見る處で、確たる目的を示さずに極く軽く用ひて副詞句を爲す場合が多い。

例:— a) *Por citi ekzemplon.* 例を挙げれば

b) *Por diri pli detale.* もつと詳しく申せば、等々。

La vespermanĝo, kiun oni kutime prenas inter la sesa kaj la oka horo vespere, estas ordinare la ĉefa manĝado en la tago.

La servistino metas sur la tablon la manĝilaron por ia nombro da personoj en la manĝoĉambro; la tablotuko kaj buŝtuko devas esti ĉiam puraj. Kiam ĉio estas tute preta, la servistino anoncas: “Sinjoro (aŭ Sinjorino), la vespermanĝo estas servita (estas preta),” kiu signifas ke oni povas sidiĝi ĉe la tablo.

【説明】 ĉefa 主要な。manĝil'aro 一揃の食器。por ia nombro da personoj 或人數分だけの。pura 清潔な。anonci 告げる。preta 用意されてある。

晝食は通例十一時から一時迄の間にさられる。家庭で食事をしない人達は澤山在る飲食店のどれかへ出かけて行く、其處では献立表から自ら選んで食べることも出来又一定の値段で(定食)食べることも出来る。

其處での御給仕は女給かボーイによつてなされる。通常人々はスープ、魚、胡瓜付の牛肉か、揚げた馬鈴薯付のピフテキか皮ごこ料理した馬鈴薯、野菜かサラダ(生菜料理)、砂糖漬果物、食後の菓子か、チーズ等々を注文します。此の食事と一緒に一盃の赤葡萄酒か白葡萄酒を飲みます。終りに一杯のコーヒーを飲み葉巻か巻煙草をのみます。

通例夕刻六時から八時迄の間にさる夕食は一般に一日の重な食事である。

下婢が食堂で或人數だけの食器を一揃食卓の上へ置く。食卓掛と口拭きは常に清潔でなければならぬ。すべてが全く整つた時、下婢はこう知らせます、「旦那様(又は奥様)御夕食の御仕度が出来ました」。これは食卓についてもよいと云ふ意味である。

エスペラント中等講義

【Vortoj de l' Saĝuloj】

La amo de la homoj estas sensenca kaj ilia kredo malsaĝa, se ili estas maljustaj. La granda eraro de la plej bonaj homoj en ĉiuj tempoj estis tio, ke ili volis helpi al mizeruloj, donante almozojn, predikante paciencon, esperon kaj ĉiajn aliajn helpilojn kaj konsolilojn, sed ne donante al ili tion, kion sole Dio ordonis, nome: justeco.

—John Ruskin—

賢者の言葉 【譯】 若しそれらが道ならぬものであるなら人間の愛は馬鹿げたものであり、又其信仰は愚の骨頂である。最善なる者の大なる落度はあらゆる時を通じて、彼等が貧困なる者を助けんと欲するに當り、施物を與へ、忍耐、希望其他在りとあらゆる救済の手段や慰安となる物を説き聞かせ乍ら、唯神が命じ給ふた所謂正義を彼等に施し與へなかつたことであつた。

【註】 John Ruskin (1819-1900) 英國の著名な藝術批評家、經濟學者であり、又十九世紀に於ける最も偉大なる prozoverkinto.

sen'senca 無意味な。～aĵo 馬鹿げたこと。ilia=de la homoj. kredo 信仰。mal'saĝa 愚な、malsaĝa の前には estas が省略されてゐる。ili=la homoj, 文法上 ili を先行文の主語たる amo と kredo にまつた方が穩當でもあり、意味もされるにはされるが、ili=la homoj の方が一層穩當の様に思はれる。mal'justa 不正當な、eraro 誤り。en ĉiuj tempoj 凡ゆる時に於て、常に、ĉiam と同義。ili=la plej bonaj homoj. mizer'ulo 貧困なる者。doni almozojn～almoz'doni 施物をする、喜捨する、almoz'peti 施物を乞ふ。prediki 説教する。pacienco 忍耐。espero 希望。help'ilo 自らを助くる資となるもの。konsol'ilo 自らを慰むる資となるもの。ili=mizeruloj. sole 唯、單に、ordoni 命ずる。nome 即ち。just'eco 正義。

(i) La mondo estas la sama por ni ĉiuj, kaj bono kaj malbono, peko kaj senkulpeco iras tra ĝi manon en mano. Fermi siajn okulojn al duono de l' vivo, por vivi senzorge, tio estas, kvazaŭ oni blindigus sin mem, por paŝi pli senzorge en lando de abismoj kaj rifoj.—

(ii) Estas absurde, dividi la homojn je bonaj kaj malbonaj. La homoj estas aŭ ĉarmaj aŭ tedaj. Mi aliĝas al la partio de la ĉarmaj.—

(iii) Cinikulo estas homo, kiu scias la prezon de ĉio kaj la valoron de nenio. Kaj sentimentalulo estas homo, kiu vidas absurdan valoron en ĉio kaj ne scias la foirprezon de iu unuopa aĵo.—

(iv) Sperto estas la nomo, kiun oni donas al siaj eraroj.—

(v) Inter viro kaj virino neniu amikeco estas ebla. Tie estas pasio, malamikeco, adoro, amo sed ne amikeco.—

(vi) Mi estas ununura persono en la mondo, kiun mi dezirus koni tute precize.—

Oskar Wilde; *La ventumilo de Sinjorino Windermere.*

【譯】 (i) 此世は吾々すべてにまつて同一である、故に善と惡、罪業と無邪氣とは手に手を携へて此世を往行する。何氣なしに此世を渡る積りで生活の半ばに吾と吾が目を開ずることは、之を假令へば深淵と暗礁の國を割

合無造作に歩まうとして自らを盲目にする様なものである。

(ii) 人を分つて善人、悪人になすなどは馬鹿げた話だ。人は妖艶であるか、又は嫌氣を催させるかである。吾輩は妖艶な者の組に加はる。

(iii) 犬儒主義者はすべての物の價格を知つて、何物の價值もを知らぬ人間である。而して感傷家はすべての物に荒唐無稽の價值を認めて、物一ツツの市場價格を辨へぬ人間の謂である。

(iv) 経験とは人が自らの誤謬に與ふる名稱である。

(v) 男女間には如何なる友情も在り能はぬ。そこには熱情、敵愾心、尊敬心、愛あるのみで、友情は存しない。

(vi) 吾輩が此世中で徹頭徹尾正確に知らんことを欲する唯一の人間は吾輩その人である。

【註】 Oskar Wilde については前號「ドーリアン、グレーの畫像」中より引用した際に述べたからこゝには省略する。以上六つの fragmentoj は、先頃映畫でも紹介された「ウィンダミア夫人の扇」中より引用したもので、Wilde の抱懷した思想の一端が充分にこの中にも窺はれる。

(i) *la mondo* 世界、娑婆。 *kaj* は往々極く軽く原因結果を示すのに用ひられる。例へば *Estis terure varme en la nokto kaj ni dormis eksterdome.* (その晩はひどい暑さだったので僕等は戸外で寝た)。 *peko* 罪、罪過。 *sen'kulp'eco* 無邪氣。 *Senkulpigu min!* お許し下さいませ。 *tra ĝi=tra la mondo.* *manon en mano* 手に手を携へて。 *al du'ono de l' vivo* 人生の半分に對して。 *sen'zorge* 屈託なく。 *tio* は *fermi* 以下 *senzorge*迄の文を受ける。 *blind'igi* 盲目にする。 *paŝi* 歩む。 *pli sen'zorge* 目を開いてゐる場合よりも一層氣樂に。 *abismo* 深淵。 *rifo* 暗礁。

(ii) *absurda* 馬鹿げた、荒唐無稽な。 *dividi* 分割す。 *sub~i* 小別す。 *bonaj kaj malbonaj (homoj)* 魅惑的な。 *teda* 嫌氣、倦怠を催させる様な。 *al'igi* 参加する。 *partio* 黨派。

(iii) *cinik'ulo* 犬儒主義者。 *prezo* 値段。 *valoro* 値打。 *sentimental'uo* 感傷的な人間。 *foir'prezo* 市價。 *unuopa* 一ツツの。

(iv) *sperto* 経験。 *eraro* 誤謬。

(v) *amik'eco* 友情。 *ebla* 可能な。 *tie=inter viro kaj virino.* *pasio* 熱情。 *mial'amikeco* 敵愾心。 *adoro* 崇拜。

(vi) *unu'nur'a* 唯一の。 *precize* 正確に。

dezir'us に假定法を用ひたのは言ふ迄もなく、「もし出来るなら知りたいものだわい」と云ふ願望の意を表す爲で此種の用法は日常屢々見る處です。

例:— *Mi tre volus vidi vin en la proksima estonteco.* 近々に是非御目にかゝりたいんですが。全文を直譯すれば「吾輩は、吾輩が全く正確に知らんことを望んでゐる、此世の唯一の人物である」。

Kiam racio kaj pasio inter-
batalas, tiam senriske vetu dek
kontraŭ unu, ke la pasio venkos.
—W. Shakespeare—

【譯】 理性と情熱とが相闘ふ時には、十對一で情熱が勝を占める賭をして見給へ、先づ危険はなからう。

【註】 *racio* 理性。 *pasio* 情熱。 *inter'batali* 交戦する。 *sen'riske* 冒險なしに。 *veti* 賭ける。 *venki* 勝つ。

Genio estas nur eminenta ta-
lento por pacienco. —Buffon—

【譯】 天才は忍耐する優れた才能なるに他ならぬ。

【註】 *Buffon.* George Louis Leclerc, Count de Buffon の謂で十八世紀に於ける佛蘭西の著名な博物學者。今でこそ殆んど科學的價值を失つたが、當時廣く歐洲諸國に自然研究の趣味を普及するに貢獻をなし、一般人に繙讀された、自然史の大著を殆んど一生涯の仕事として大成した。彼の著書の多くは、殆んど凡ての歐洲語に翻譯されてゐる。

genio 天才 (才能そのものを指し、これを有する人のことを *geni'ulo* と云ふ)。

Ekzistas ŝtelistoj, kiuj laŭ la
leĝoj ne povas esti punataj kaj
kiuj tamen ŝtelas de la homoj la
plej valoran, nome la tempon.
—Napoléon I—

【譯】 法律を以て罰する能はず、而も人間よりその最も貴重なるもの、即ち時を盗み去る盗人がある。

【註】 *ekzisti* 存在する。 *ŝtel'isto* 盗人。 *laŭ la leĝoj* 法律によつて。 *puni* 罰する。

質 疑

應 答

★7月號中等講義最初の文の終り Sed kiam foje tio okazas, tiam la amo estas tia, kia finiĝas nur kune kun la vivo. は『そうなた場合にはその愛は非常に強く生命と共にしか終ることはない』と云ふ意味ではないでせうか(高崎、木戸氏)。

[答] 然り。自分の昔離された半分にぶつかることは稀だが、一度めぐりあへばその愛は強く結ばれて、生を終るまでつゞく底の強いものである意。

★副詞と前置詞 de の使ひ方を詳細にお知らせを御願ひ致します(龜岡、桑原氏)。

[答] 御質問の要點がよくわかりませんが

(A) 副詞なるものの用法ならば例へば『模範エスペラント獨習』第五課(p. 31)に詳細説明してありますが、先づ第一に形容詞との違ひはエスペラントとしては

『名詞(その代用たる代名詞を含む)を形容するのは形容詞; その他の場合を形容するのは副詞』と云ふ理論的な役割になつてゐる。例へば a) Ĉevalo rapida kuras.

b) Ĉevalo rapide kuras.

a) は rapida が形容詞であるから名詞 ĉevalo を形容、即ち馬が速いので『速い馬が走つてゐる』; b) は rapide が副詞であるから名詞 ĉevalo を形容するのではなくして他のもの即ち動詞 kuras を形容してゐるので、走り方が速いこと『馬が速く走つてゐる』。

c) 彼はひさりで來た(來たのは彼ひさり)。

d) 彼は丁度よい時に來た。

c) は彼の來方が孤獨の意ではなく、彼その人がひさりの意、即ち『彼』なる代名詞を形容するのであるから形容詞 sola を用ひて

Li venis sola.

とせねばならぬ。d) は彼自身が丁度よい時と云ふのでなく、その來るや好時機、即ち『丁度よい時に』は動詞『來た』を説明するのであるから副詞を用ひて

Li venis ĝustatempe.

次に副詞の用ひられる場合を分類すれば

(1) 様子(具合、度合)を形容:

Li parolas tre bone.

彼はたいそうよく話す。

副詞 bone は話し方の様子(具合)を説明し、tre は上手さ即ち bone の様子(度合)を形容す。なほ tre bone は Li parolas en tre bona maniero. と云へる。茲に en tre bona

maniero は副詞 tre bone と同じ意味の『副詞句』である。

Ŝi flegis min patrine.

彼女は私を母親の様に看護してくれた。

茲に patrine は flegis なる動作の様子(具合)を示すもので、又 kiel patrino と云ふ句(副詞句)と同一である。

Li kuŝis surventre.

彼ははらんばいになつて (sur'ventr'e=sur la ventro) 臥てゐた。

(2) 動作の方法(手段):

Ni iru piede=per piedo.

歩いて(足で)行こう。

Respondu al mi poŝtkarte=per poŝtkarto.

ハガキで返事してくれ。

(3) 動作の時刻、時間:

Ni alvenis tien matene (=en la mateno).

其處へ朝(時刻)着いた。

Li parolis longe (=dum longa tempo).

長く(時間)話をした。

(4) 動作の場所:

Ĉu via patro estas dome (=en la domo)?

お父様は御在宅ですか?

(5) 名詞(代名詞)以外のものを形容する場合の補足語:

Estas malfacile ellerni iun fremdan lingvon.

何か外國語を習得するのは困難だ。

此の文の主語は ellerni なる動詞で、従つてそれを説明する補足語は形容詞形ではなく malfacile と副詞形にせねばならぬ。若し ellernado と云ふ名詞を用ひれば形容詞を用ひて

Ellernado de iu fremda lingvo estas malfacila.

Estas tre varmege. たいそう暑い。

なる文には主語がない。即ち名詞を形容するのでないから説明の補足語 varmega は副詞を用ひるのが理論的である。なほ Hodiaŭ estas varmege に於ても hodiaŭ は單に en la hodiaŭa tago, 即ち時を示す副詞で文の主語ではないことに注意。

(6) エスペラントでは此の如く副詞が甚だ軽く便利に用ひられる (patrine, surventre など)。名詞などを用ひると句が重くなる場合副詞が恰も助辭の如くに軽く用ひ代用されることあり。

Mi vidis multe (=multon) da birdoj.

鳥がごつさり居るのを見た。

〔比較〕 *Kiom da birdoj?* 鳥が何羽?

Tro da kuiristoj kaĉon difektas.

船頭多くして船山に登る。に當る。

(B) 前置詞 *de* は毎々云ふ通り前置詞 *al* が → ○ なる関係を示すのに對して ← ○ なる関係を示す。これを日本語に譯す場合に應じて色々な譯を下さればならぬ。便宜分類して示せば:

(1) 『出發點』は即ち ← ○ なる関係

Mi venis de la nevo.

甥の處から (← *la nevo*) 來ました。

〔比較〕 *Mi iras al la onklo.*

叔父の處へ (→ *la onklo*) 行く處です。

De Tokio ĝis Kioto. 東京から京都まで。

La lampo pendas de la plafono.

ランプは天井からぶら下つてゐる。

(2) 『以來、以後』は時の出發點

De Januaro. 正月以來 (← 正月)。

De nun. 今から。 *De tiam.* 爾後。

Denove. (新奇まきなほしに) 更に。

(3) 『由來』は抽象的出發點

La familio Taira venas de la imperiestro Kammu.

平氏は桓武天皇より出づ (← 桓武天皇)。

(4) 『原因』とは或る動作の由つて起る出發點を示す。

Li mortis de malsato.

彼は餓死した (死 ← 餓)。

Li ruĝiĝis de honto.

恥ぢて赤くなつた (*ruĝiĝi* ← 恥)。

(5) 『受身』に於ける發動者。目的格 (-n) は元來方向格で動作の及んで行く先を示す、即ち『動作 → 目的格の語』なる関係を示す。依て受身の場合動作の發動者(動作の出發點)を示すのに *de* が用ひられるのは當然

Li batis ŝin. 彼は彼女を打つた。

(彼一打つ → 彼女を)

Sin batis li. (彼女を ← 打一彼)。

= *Ŝi estis batita de li.*

彼女は彼になぐられた。(彼女 ← 打一彼)

Tiu ĉi skatolo estis farita el ligno de li per segilo. = *Li faris tiun ĉi skatolon el ligno per segilo.*

此の箱は彼が(動作をする者、發動者)鋸を用ひて(道具 *per*) 木で(材料 *el*) 造つたのです。

(6) 『所有』即ち日本語の『…の』も『…の所有する、posedata de, havata de』で、結局 *de* で示される。

La libro (posedata) de la patro.

父親が所有する(父によつて所有されてゐる) 本 = 父の本 (本 ← 所有一父)。

La supro de la monto (*La supro havata de la monto*). 山の頂。

Li estas de meza kresko (*Li estas homo de meza kresko* = *Li estas mezkreska*) = *Li havas mezan kreskon.*

彼は中脊である。

★ *La predikanto*, p. 7-8: *Kaj mi turnis min por rigardi saĝecon kaj malsaĝecon kaj sencecon, ĉar kion povas fari homo post reĝo en komparo kun tio, kun tiu jam antaŭ longe faris?* の *ĉar* の意味を(釜山、荒木氏)。
〔答〕 *ĉar mi pensis, kion……* と補足してみればわかりませう。然しそうしてはあまり尋常の云ひ方です。もし略して直接に *ĉar……, kion povas fari homo……?* とすれば話が生き生きとして來るので、こう云ふ用法も用ひられることがあります。譯は『して私は(私のやつた事の賢さ、愚かさ、無意義さを視るためにふりかへつて見たのです、その譯は王が既に以前にやつたことと比較しては普通人が王のあとから何がやれるものでせうか(と考へたから)であります。』

〔注意〕普通辭典を引けば求め得られるような單語を御質問になる方がありますが、かゝる質問に對しては、多忙な吾々の手だけでは一々御答へし兼ねます。又質問はなるだけ一般向のものを歓迎します。各個人宛へのお答へは出来るだけはつとめていたしますが、手がありませんから自然遅延いたしますが、目下の處では何とも致し難い次第故、何卒悪しからず。

本年度 Esperantista Akademio で入賞のエスペラント作品は

原作: *Prozo Ridetanta*, de *R. Schwartz.*

La Tajdo, de *N. Hohlov.*

La alta Kanto, de *Teo Jung.*

翻譯: *Fabiola*, trad. de *Ramo-Robert.*

Luno de Izrael, trad. de *Payson-Butler.*

Akademio の評は *Prozo Ridetanta* は *singardema* の意味に *prudenta* を, *vekanta scideziron* を *intriga*, *ekĝemi* を *sopiri* と書いた所を缺點とし *Luno de Izrael* には “*Li vidis la ĉambelanon, staranta*” の如き誤のあるのを遺憾としてゐる。

一路 ロンドンへ

——見よエスぺ란トの實用價值——

進藤 静太郎

常設エスぺ란ト團 (Konstanta Reprezentantaro) 日本代表進藤静太郎氏は去る六月父君の代理で商用のためロンドンへ赴かれた。最近第一回の消息がさざいた。

* * * *

先づ京城では長谷川兄のお出迎を受け丸二日間お世話になり、白南奎先生、魚徹、Saliko、山本氏などに會いました。

六月六日朝九時 Harbin 驛着。U. E. A. の del, 測候所長 Pavlov 氏を始め大阪外語出身の岡田君等四名出迎、荷物の世話までしてもらふ。岡田君の案内でキタイスカーヤ街其他の街々、松花江の對岸まで散歩。

午後五時 Pavlov 氏の招待で氏の宅並に測候所である建物に行き臺上から北滿の曠野を眺め、下に降りてお茶によばれる。同席に東支鐵道の關手 K-do Ancifirov, 支那の同志で夫君は北支那、妻君は廣東生れでお互には E p. で話してゐると云ふ御兩人、及び二三の露人を交へ八時過ぎるまで歡談。

八日朝九時 Ĉi ta に着きました。驚いた事には丁度私の箱の止つた所は全部 insigno をつけた人ばかり、人數三十餘名、その中から現れ出たのが當地、否ザバイカル地方 Esp. の總元締格の K-do Bajenov 氏、中々の達辯家で Serišev 以上と思はれる早口、うっかりすると壓され相でグダグダとなり乍ら馬力をかけて應對し、井上君から頂いた Japanlando を手交しました。たつた八分ばかりの停車でしたが充分交歡を盡しました。Bajenov 氏が皆に『どうだ皆理つたか』とやる。大部分が komencanto 乃至 -into であるらしく皆『あの Japano の云ふ事はよく分る、自分達の習つた事と差別はない』と云つて喜ぶと云ふ調子。これは到る處でも同様で、Siberio は外國 samideano がともすると malatenti し、又實際通過も餘り多くないと見えて、皆初めて目の當り言葉が通じるのを見て喜ぶのを見た。彼等にまつては alilanda samideano に出會ふと云ふ事それ自身が大きな喜びである様に見受けられました。Tomsk の二人の junuloj の如きは 40 mejloj の距離を遠しとせず、夜通し歩いて會ひに来たと云ふ熱心です。今後 Sberio を通過する同志は必ずこの Monda centro から遠くかけ離れた地方の Esp-i toj

並に movado を激動する爲め SAT-ano たると否とを問はず、SAT の名簿で前以て通知するだけの勞力を決して惜まない様に心掛けたいものと思ひます。實際彼等の entuziasmo を目の前に見せ付けられるので、Esp-isto でない同車の人々もいたく感ぜしめられたと告白してゐる位ですから、socia ideologio の相違などは先づ第二の問題で、こうなると Esp-isto は先づ lingvo unue になるようです。通知を出すべき主要な所は Ĉi ta, Irkutsk, Krasnojarsk, Novo-Siberisk (元 Nikolaevsk), Tomsk, Taiga, Omsk, Sverdovsk (元の Ekaterinburg), Moskvo などです。

殊に Ĉi ta の Bajenov 氏の如きは途中主要停車驛の停車時間、汽車の時刻表にあるモスクワ標準時に對する地方時刻等までも詳しく書いたものを呉れましたので人變便利で、他の乗客に對して鼻が高かつた次第です (これは日本の Tourist Bureau あたりでも充分にはわかりません)。

Moskvo では秋田雨雀氏の紹介で Narkompostel (無線電話管理國民委員會?) の Filipov 氏に會ひました。現在 Moskvo には Esp-isto 三千と稱してゐるだけあつて午後二時から五時迄赤毛布見物をしてゐる間にも Poeto Hohlov の frato の外に今一人の Esp-isto を路上で出くわしました。

十五日夕、Moskvo より Varsovio に到着、三人の samideano に迎へられて Hotel Bristol に入りました。夕方、波蘭の K.R. の代表 Kostecki 氏に案内せられて他の二人の samideano と共に公園で dancoj や kantoj, koncerto のあるのを見に行きました。十時頃 Leono Zamenhof 博士もお見えになつて愉快に夕を過しました。

翌朝 Adam Zamenhof 氏の宅に Majstro の圖書を拜見に出かけ、Lidja Zamenhof の案内で Katalogo の扉を模寫したりしましたが川崎君が望みの Zamenhof の trakukajoj の originala libro は不幸にして一冊も無く、Lidja 嬢も、Adam 氏も何版かであつたか充分記憶して居られませんでした。晝前に辭して、Lidja Zamenhof に教へられて電車で猶太墓地にある Majstro の墓を訪ねました。電車の中で猶太人が何處へ行くかと聞くので、

Z博士の墓地だ云ふと „Ho-Dr. Zamenhof!“ と云つた様な調子で大抵知つて居ました。お墓は寫眞で見たのより良く出来てゐると思はれました。同夜ベルリンに向け出發。

伯林では櫻田君が Schlesischer Bhf. まで出迎へに来て下さいました。ハルビンの岡田君以來の最初の japana samideano に出遇つて何となく嬉しくなりました。先づ U.E.A. の œfdel. の Max Blankenheim 氏が Mittel-europäische Reisbüro に居られる事を知りましたので丁度伯林から先の切符はこゝで引換る事になつてゐますから。これ幸ひと押しかけて手續を全部済しました。これなどは U.E.A. の del. として誠に恰好な職業で、一般 Esp-istoj の受ける便益が大なるのみならず又宣傳にもなる事と思はれます。

同十七日は櫻田君の案内で見物に費しましたが丁度月曜日（月曜日は博物館等は多く休み）の事とて人出が尠く、極めて音無しい夕を送りました。

翌十八日 Köln へ向出發、同日午後四時着、Taksiburo で U.E.A. del. の處へ行つたが不在、又自動車で Heroldo de Esp. の新事務所 (Brüsseler str.) に行きました。Ĉefredaktoro Berger 氏と外に男の事務員と一人の maŝinskribistino が居て心よく迎へてくれました。Teo Jung 氏は眞黒になつて印刷工の歸つたあゝをまだ一人で働いていましたので感心しました。丁度第二 Budapeŝto 號の植字中校正刷り中でした。新事務所は丁度我が日本 에스ペラント學會の事務所位の廣さでその奥に倍大の印刷場があります。

夕食を Teo Jung 氏と共にして外の人達を待ちました。Berger 氏の外 Hucler 氏夫妻が見え、先づ Köln に獨特の biero を地方色豊富な Bierejo „Sankt Andreas“ で満喫しました。その中に我々の話してゐる Esp. が飲み客の話題になつて Berger, Jung 兩氏が交々辯じ立てる一席をやつて、更に他の bierejo に銚を轉する云ふ次第です。こんど來た店では Esp-istoj が餘り長く biero 一杯でがんばるのが常なので最近敬遠し始めた云ふ所。又來たなとでも云ひたい様な mastro の顔を尻目にかけて二杯の biero を傾けて、今度は Rejno 河の夜景見物に出かけました。丁度外國の貴賓が滞在中と云ふので有名な Katedralo を電飾で美しく照し、暗の大河の上にくつきり峙えたつた姿を完全に見せてくれました。大橋の向ふ詰めにある、安倍川の安倍川餅とでも云ふべき油揚げを食つて又河を

越えて市内に歸り、今度は河岸近くにある古色蒼然たる葡萄酒屋に入りました。こゝは名も古めかしい中世 Rhein 獨逸語で „Zum Fiesem Kunibert in Hessenland“ と呼び天井は弓矢甲冑狩の獲物等で飾り酒樽の上に腰掛ける云ふ様子。客は皆學生又は學生氣分の消えぬ連中、大きな臺のついた pokalo に Mosel の白葡萄酒を受けて、知れると知らざるを問はず乾杯し合ふ云ふ愉快的氣分。或は gitaro に合せて歌を歌ひ、或は口角泡を飛ばして論談する云ふ光景に我々も Esp. で „Gaudeamus Igitur“ を歌へば彼等も獨逸語で和し、最後は „Ergo bibamus zum Japan“ であり、zum Fujiam であり、zum Mikado である云ふ仕末。小生も常になくこの美味な Moselvino を過ごして忘れ難い好印象を御堂光る Köln に残して二十四時十五分發の急行で Ostend に向ひました。

伯林の Blankenheim 氏並に Köln の同志の好意で萬般遺憾なき寢臺車に熟睡して、目ざむれば早や Bruxel を通過した後でした。九時前 Ostend 着、十一時の連絡船に乗れば、これは又思ひがけなく英國の一老 Esp-isto と出遇つて四時間の航海も短く過ぎました。海は又池の様な静けさで申分なく、しかも Dover に着けば同地の del. N. Chitty 氏が特別な税關の許可を得て入國調査に立會つて口を添えてくれましたので難なく二等車のある連絡列車に間に合ふ事が出来ました。普通の外國人はなかなか手間取つてこの車船連絡列車に乗れぬ爲め『二等の無い普通列車にあつては三等車に乗車せられたし』との添書きが切符にある位です。

Dover より一時間半餘りで無事 London の Victoria 驛に到着。London の U.E.A. dol. turismo 係の S-ro Wadham の出迎を受け、旅行を終えました。

只今 Richmond の河向ふ St. Margaret の素人下宿に居ります。毎日 city (記者註: London の商業中心、ほんとの London 市) の Cannon Street の Wm. Duff & Son, Ltd (進藤氏の代理店) へ通つてゐます。

英國の Esp. 界及び Esp-istoj に就てはいづれ又報告いたします。(七月八日ロンドンに於て)。

〔記者より〕進藤君は英國での商用を済されたる後、出來れば Budapeŝto の萬國 에스ペラント大會へ出席され、再びシベリヤ鐵道で歸朝される豫定です。定めし面白い 에스ペラント界消息のお土産があることと待つてゐます。

最新國際語 NOVIAL

(其 二)

小坂 狷 二

前號お約束の動詞から名詞作製の第二陣

(1) 第二動詞は語尾 *e* を除き *-ione* を附す: *opine*, *opinione* (= *opinio*);

(2) 第一動詞は同じく *-atione* を附す: *admira*, *admiratione* (= *admiro*);

(3) 第三動詞は *-itione* を附す: *puni*, *punitione* (= *puno*);

(4) 第四動詞は *-utione* を附す: *evolu*, *evolutione* (= *evoluo*, *evolucio*).

何と巧妙にローマン語に似せ得たことよ
英語: *opinion*, *admiration*, *evolution*). 茲に於て讀者諸君は何が故に動詞の語尾にわざわざ *-o*, *-a*, *-i*, *-u* の四種を作つたかと釋然として了解されたことと思ふ。只動詞出身の名詞の形式をローマン語のそれに似せたいばかりに四つの動詞語尾を採用して他民族を困らすのかなぞと野蠻を云ふ勿れ、J氏はかかる場合常に曰く:『全世界に知られてゐる形式』と。もし日本人がローマン語を知らればそれは日本が野蠻國だからである。

更にJ氏は *-o* 語尾のものは大體『動作そのもの』を、*-ione* 式語尾のものは『動作の結果』を示すのが普通で區別があるを釋いてゐるが實際吾々が實地の會話に於て *diskuso* (議論すること), *diskusione* (議論の結果) など一々區別して使ひわけが出来ようか、(Esp. ならば一概に *diskuto* を用ひ、特に動作を強調して示したい時に *diskutado* を用ひればよい)。しかも Nov. には Esp. と同様 *-ad* なる接尾字もあるに於ておやである

After multi-jari kolekto (又は *kolektado*)
lo have nun belisi kolektione. = Post mult-jara kolekto li havas nun belegan kolekton.

又此の法則でやつても必ずしも常に『全世界に知られたる形式』は得られぬことがある。*Judika* (= *juĝi*, 英 *judge*) の結果は『判決』(*juĝo*, 英 *judgment*) だが之をJ氏は *judikatione* と云ふつもりなりや。なほJ氏による *lekte* = *legi*, *lekto* = *legado*, *lektione* = *leciono* 又は *lekcio* の意だそう。成程語源的にはそうかも知れぬが吾々にはのみ込み兼ねる。

形容詞: 一般の語尾は *i* であるが之は略してもよい *stranji* 又は *stranj* (= *stranga*), そ

して形容詞から名詞を作るには *e*, *o*, *a*, *um* があることは前號に述べた通り (*stranje* = *strangulo*, *stranja* = *strangulino*, *stranjum* = *strangaĵo*)。然し他の詞から形容詞を作るには Ido 同様中々面倒である:

(1) 語尾 *e*, *o*, *a*, *um* を有する名詞から形容詞を造るにはその語尾を *-i* で置更へる。

(2) 接尾字 *-al*: ラテン又はローマン語系形容詞の多くに用ひられ、大多數の『文明國』語にも用ひられてゐる形式のものに對しそのまゝ Nov. でも襲用する: *natural*, *universal*, *national*, *verbal*, *material*, ...

此の場合語尾は除いて *al* を附ける: *kordie* = *koro*, *kordial* = *kora*

〔除外一〕語尾 *-u* の名詞に限り語尾を除かず *al* を附す: *sexu* = *sekso*, *sexual* = *seksa*.

〔除外二〕*patro*, *fratro* 等は語尾はそのまゝで *n* を挿入して *al* を附す: *patronal* = *patra*; *patranal* = *patrina*; *fratronal* = *frata*; *fratranal* = *fratina*. この『除外の二』はJ氏が自ら名案として頗る御得意の體で、悦に入つて御座るのだから野蠻語人たる吾々日本人はかなはない。

(3) 『住民の、一員の』の意の時は接尾字 *-an* を附す: *Amerikan* (*Amerikana*), *vilajan* (*vilagana*)

(4) 『を有する』殊に『多く有する』意の時は接尾字 *-os(i)* を附す: *kuraje* = *kurago*, *kurajosi* = *kuraga*; *danjere* = *dangero*, *danjerosi* = *dangera*. 成程此の二例は『勇氣ある(を有する)、危険を有する』意だから合點が行くが、次の如きは遽には合點が參り兼ねる: *gratie* = *gracio*, *gratiosi* = *gracia* (英語では成程: *graceful*); *joye* = *gojo*, *joyos* = *goja* (英では *joyous*, *joyful*) 然るに『幸福な、幸ある』は *felisi* で、*felisosi* とは云はない。

(5) 『に適合する』意の時は接尾字 *-ari* を附す: *regle* = *regulo*, *roglari* = *regula* (英 *regular*); *elemente* = *elemento*, *elementari* = *elementa*, *unuagrada* (英 *elementary*); 同様に *populari* = *populara*, *ordinari* = *ordinara* (*ordino* は *ordo* の意)、*imaginari* 等皆此の方式で *regule* に作つたものと云ふのだから日本人は一寸手が出せない。

實際此等の使ひわけは實地活用に當つて口

一マン語系外の人をして足も手も出せぬ程迷はしめる方則で、全く Ido (ari は Ido に百尺竿頭一步を進めたもの) の愚をまねたものである。例へば『性慾の』なる形容詞は『性慾に關する』意と考へれば sexual であり、『性慾を有する』意と考へれば sexosi (或は除外例で sexuosi と云はねばならぬかごうかは J 氏は示してない; 同書の不備は前述の通り) でよささうでもある。『神秘 (misterie) な國民』は misterii popule か、misterial popule か、misteriosi popule か惑はすすぐ云へる日本人は何人あろうか。ローマン語系民なら決して惑はない、何となれば彼等の語をそのまゝ真似て misteriosi とすればよい (英 mysterious、佛 mystérieuse)。-os=-ous, -ful なのだから英國人なら子供でもやれる。尤も或英國の子供に pious は何だと聞いたなら full of pies だと答へたと云ふお愛嬌な間違ひ位はあるかも知れないが...

そこへ行くに Esp. は簡單明瞭 seksa; mistera... さやつてゆけばよい。そして特に必要な場合にのみ -hava, -riĉa (=osi), laŭ-a (=ari) などと云ふ造語を用ひればよく、何人といへども惑ふことはない。

なほ generalal (general), katanal (katina) などと云つてもよいものか。J 氏自身も romanali (roman?) lingues, amerikan (amerikal) inventere, dani (danali?) komedie などと書いてあるが何分前述の如く J 氏の著は學習書としては不備なもの故わかり兼ねる點が多々ある。

形容詞は無變化、即ち複數にも -s をつけぬが普通だが、特に必要な場合にはつけてよい: Hir es multi roses: ob vu prefera li blankis o li redis? = Tie ĉi estas multaj rozoj: ĉu vi preferas la blankajn aŭ la ruĝajn?

副詞: 形容詞語尾 -i の次に語尾 -m を添える: stranjim = strange.

人稱代名詞:

		單數	複數	所 有	
一人稱		me	nus	men	nusen
二人稱		vu	vus	vun	vusen
三人稱	汎性	le	les	len	lesen
	男性	lo	los	lon	losen
	女性	la	las	lan	lasen
	中性	lum	les	lumen	lesen
	自身	se	se	sen	

此處にも不規則が見られる: lum→les; nus→lesen (成程 lums, lesn では發音がしにくい) など。其のくせ J 氏は規則的だとホラをふいてゐる。汎性(男又は女の不定の場合、但し中性に非ず)の存在や、三人稱複數に性の區別あることなどは明かに改悪である。

目的格は普通の場合用ひない: Me ama vu = Mi amas vin.

然し特に必要な場合には -m を附す (但し語尾に s あるものは e を挿入する): mem; nusem, vum, vusem, lumem, sem. Vum me ama = Vin mi amas.

然し J 氏としては目的格は實は嫌々で、むしろ語序によつて示すがよいとしてゐる:

Qui fema lo admira?

=Kiun virino li admiras?

Qui fema admira lo?

=Kiu virino admiras lin?

何ぞ J 氏の無智蒙昧なるや。國際語は語系を異にする諸民族に依て使用されるのであるから文法規則は一定統一的のものでなければならぬが、sintakso は自由でなければならぬ。そして文章の自由は一に目的格の存在にかゝるもので、目的格の拋棄は國際語の自殺である。もしそれ J 氏が『主語+動詞+目的格』なる語序のみが人間語としての自然であると考えへるならば氏の言語學觀は全く邪道に陥つてゐるものと云はねばならぬ。

所有格: Esp. には所謂所有格はなく形容詞形にするか前置詞 de を用ひること日本語『の』と同様である: la oficejo de mia patro. Nov. は前置詞 de の外に人稱代名詞の場合と同様所有格語尾 -n を附し得る。

〔除外例〕子音に終るものは e を挿入して -n を附す。Men patron kontre 又は li kontore de men patro. Li homosen laboro = La laboro de la homoj.

數詞. 1 un (特に emfazi する時 uni), 2 du, 3 tri, 4 quar, 5 sink, 6 six, 7 sep, 8 ok, 9 nin, 10 dek, 100 sent, 1000 mil で大體 Esp. と同様だが十位數は -dek を用ひず -anti を用ひる: 70 sepanti, 80 okanti, 99 ninanti nin. J 氏 Esp. 式 (即ち日本式) を嘲笑して曰く: 殊に獨逸人にまつて迷惑だ、tridek は 30 だが獨逸語で dreizehn は 13 だ。然し Nov. 式は吾々日本人にまつては迷惑千萬でござる。

ドイツ人のはしくれ

粟飯原 晋

39. 我等の俗謡

1928 年に Hungaria Esperantista Societo Laborista から出版した “NIKANTU!” というハンガリーの民謡及び労働者歌集に民謡の歌曲で歌ふ面白い Esperantista popolkanto がある。次に原文と意訳を掲げてみよう。

Hele brilas nia stelo kun verda koloro,
Ni fiere portas ĝin ĉe l' koro.
Kiu hontas porti la verdan stelon,
Tiu kaŝu, t' u kaŝu sin en la malhelon.

俺達の緑の星がキラキラと輝いてゐる。
俺達は威張つて緑星章を胸につけてゐる。
緑星章をつけるのを恥かしがる奴は
闇の中へ隠れてしまえ。

★ ★ ★

Kiel alta, kiel alta estas tiu grandhotel',
Ĉu enestas, ĉu enestas kamarad' kun verda
stel',
Se ne enestas kamarad' kun verda stel',
Renversigu tiu alta grandhotel'.

そのホテルはなんて背が高いんだ。
緑星章をつけた同志が居るだらうか。
緑星章をつけた同志がゐなければ、
その背の高い大きなホテル、ひっくりかえ
つて終へ。

★ ★ ★

Landon al la lando
Ĝis la mondorando
Plektu stelornama
Verda amrubando:
Nia Esperanto.

國から國を世界の端まで
星の飾りの緑のきづなで
つなげよつなげ
吾等のエスペラント。

凡ての熱心なるエスペランチストが云はん
と欲する處を、俗謡の形で明快に歌つて居る
のが痛快だ。

40. ドイツ人のはしくれ

ゲーテを讀んだ事のある人ならば誰でもドイツ人のはしくれである。然るにまたヴェー
トゲン音楽を愛する人、カントの哲學
で修養した人々は皆ドイツ人のはしくれであ
る。これと同様にシェクスピアやニュー
トン或はダーウキンに親しむ者は或る程度英
國人であり、トルストイやパヴロヴァを尊び
或はロシア民謡を重んずる丈けでも、その人
はロシア人のはしくれだ。ホメロスやアリス
トテレスやプラトンに於て偉大になつた人は
ギリシャ人である。フランス革命によつて造
られた國家的自由を尊ぶ者はフランス人であ
る。ダンテや十六世紀のイタリー藝術に對す
る我々の愛著は我々を少し許りイタリー人に
させる。そしてセルヴァンテスはスペイン人
たるべく我々を誘ふ……と云ふ意味のことを
ゲオルグ・エフ・ニコライは、その名著『戦争
進化の生物學的批判』の中に書いてゐる。

これと同様に、ドイツ語を解する者はドイ
ツ人のはしくれであり、英語に心酔する者は
英國人或は米國人化し、フランス語を尊ぶ者
は或る程度までフランス人になつたものであ
る。嘗て世界大戰の開始せられた頃、ドイツ
の新聞雑誌を通じてドイツの事情を知つてゐ
た者は何れもドイツの戰勝を口言した。また
或る専門學校のフランス語教授が、フランス
留學に際して開いて貰つた送別會席上、彼は
『多年憧憬してゐた我がフランス本國へ』旅
立つたことを得意がつて、嘲笑を買ふたとい
ふ話がある。實際一、二の外國語を以つて世
界を觀る場合には偏見が起り、誤解が生じ易
い。恰も象の耳を撫でた盲人が『象は紙の様
なものだ』といひ、足を撫でた者は『象は柱
の様だ』と言ひ、胴を撫でた者は『象は壁の
様である』と叫び、鼻を撫でたものは『象は
丸太棒の如くである』と云つた様なものだ。

何れの國の國語でもなく、嚴正中立、不偏
不黨の國際共通語エスペラントに依り、世界
各國の文化を温め、その長を探つて、自國の
短を補ひ、またこの言葉を以つて自國の文明
を世界に廣く紹介することは、現代世界に處
するの途ではあるまいか。

新刊紹介

大島義夫

★**NAŬLINGVA ETIMOLOGIA LEKSIKONO**, de Louis Bastien, 11×18 cm., p. 265, Esperantista Voĉo, Jaslo; Polujo.

エスペラントの單語は重なる國語に共通な分子を取り入れたものであることは人の知る處である。本書はエスペラントの各單語にラテン、佛、伊、西、葡、獨、英、露の八ヶ國語から同語源の語をとつて配列したものでエスペラントの國際性の實證となるものである。1907年發行、暫く品切であつたのを Grenkamp が初版の殘餘を製本して賣出して江湖の熱望にそふこととなつた。學會で取次ぐ(1圓35錢、郵税6錢)。

★**LA BAHAA REVELACIO**, en brajlo, eldonita laŭ la kontrolo de la Amerika Nacia Spirita Konveno; 18×25 cm., p. 64.

三十名のエスペラント研究者を有する東京盲學校の同志たちが Alexander 嬢の助力のもとに點字にて印刷したもので、バハイ宗の宗義を解いたものである。

★**NOVA GRAMATIKA LIBRO**, por la Supera Kurso, de D-ro Anakreon Stamatiadis, L.K., 16×24 cm., p. 185; 2 Us. Dolaroj; havebla ĉe la aŭtoro, Str. Rodou 21, Grekujo,

ギリシヤに於ける斯界の權威にして言語委員たる Stamatiadis 氏の著でエスペラント高等講習用學習書。エスペラント文で書かれてゐる故ギリシヤの學習者のみならず各國の研究者の好參考書である。第一部文法 I. Fonetiko, II. Morfologio (語法學)、第二部造語法、第三部文章論 I. 文章、II. 作詩法、III. Stilo (文體)、第四部教材。理論引例は悉く Zamenhof 其他一流のエスペラントチストの語法に據つてゐるのであるから兎角此の種の書の陥りやすい弊害たる獨斷は全く影もなく、absolute laŭfundamenta kaj fidinda で、まことにまれに見る良書として推賞に値する。在來初等教科書はあるが高等教科書でkompletaで感心出来るものは皆無と云つてよかつた。又初等講習は開かれるがその補習的な高等語法を教へる講習はあまり開かれない様である。尤もこれは教師の學力不足も主な原因であろう。此の點から見て此の種の良書の出現はたしかにエスペラント界にとつて祝福に値することである。(以上小坂)

★**寡婦マルタ** エリザ・オルセシュコ女史原作 ザメンホフ譯、清見陸郎邦語譯、改造文庫第88篇 10×15 cm., p. 314, 改造社 1929.

先きに一圓本として出され今度改造文庫の一篇として新に出されたもの。300餘頁で30錢とは驚嘆的廉價だ。

ザメンホフの最大の傑作 “Marta” がかほごの普及的出版物として日本に現はれたことは、唯 Esp. よりの翻譯書としてのみでなく、目覺めつゝある日本の現代婦人に一つの強い刺戟を與える者としても歓迎すべきだ。

美しい寡婦マルタの驚くべく悲惨な生活記録はザメンホフが群小の所謂小説の中から抜き出して譯出しただけあつて、讀む者の肺腑を貫き、涙するを禁じ得しめないものであるが、マルタを取圍む餘りにも冷酷な假借なき社會環境と、可弱い母たる一女性に流す涙の中に、所謂教育なるものの現在社會に於ける無内容な非實際的性質の缺陷を認めると共に資本と男性の二重の軛の下に喘ぐ女性は如何にして解放さるべきか、完全な人間的自由さを與えらるべきかを考えることが必要だ。そこに寡婦マルタが日本語に移つされた意義のあることを見出さねばならない。

原作者による女性的な然し客觀的な筆致はザメンホフによつて完全に Esp. の息をかけられ更に清見氏によつてよごみない完全な日本語で譯されたことは “Marta” を研究する人の爲にも、又 Esp. 文學のすぐれた片鱗を世に示す爲にも喜ぶべきだ。

★**PROLOGO**, originale verkita de Eŭgeno Miĥalski, 12×15 cm., p. 62, eld. de Sennacieca Asocio Tutmonda, Eldona Fako Kooperativa, Leipzig, 1929.

著者は未だ若いロシアの SAT-ano. 最近十年間の詩を集めたもの。Kienas とか Najtingalas なんて勇敢な neo-logismo が散見されるけれど、各篇何れも arda pasio に充ちた romantika 味なつぶり。

★**ORIGINALSTENOGRAFIO POR ESPERANTO**, (Sistemo Brabbée) de E. Brabbée kaj K. Haager, 11×15 cm., p. 32, Vieno, 1929.

ラテン書きの長所を利用し且つ最も短縮した新速記法を説いたもの。實用を前にして近頃よく出される速記書の一。

河豚の中毒

警視廳衛生試驗所

技師 三雲隆三郎

【註】 glob'fiŝo 河豚(ふ)。speco 種類。fiŝ'hoki 釣魚。froti こする。plen'blovi 吹くらす。ter'globo 球狀體。de'veni 由來す。fenomeno 現象。lanterno 提灯。epidermo 表皮。ek-sporti 輸出す。veneno 毒。tetrodo-toksino 河豚毒。toksino 毒素。ov'ujo 卵巢。lakt'umo しらこ。vejno 血管。hepato 肝臟。inter-naj organoj 內臟器關。venen'iĝi 中毒す。veneni 中毒さす。ŝerc'nomo 戲名。mort'o'lito 死の床。re'viv'iĝ'into 蘇生者。ŝajna morto 假死。sen'senta 感覺。spasme 痙攣的。lamenti 動哭す。sufoke 窒息的。

SCIENCA PAROLEJO

VENENO DE GLOBFIŜO

Rjuzaburō Mikumo,

Higiena Laboratorio de Ĉefurba Polico

Globfiŝo! En Japanujo la nomo de tiu ĉi fiŝo estas tre bone konata de ĉiuj homoj, eĉ de infanetoj. Sed oni ne bone scias ke ĝi havas multe da specoj. La japanlingvaj nomoj de l'specoj de tiu fiŝo estas: *ma-fugu*, *akame-fugu*, *tora-fugu*, *ŝoosai-fugu* kaj *hoŝi-fugu*. La grandecoj de l'fiŝoj estas neegalaj laŭ la specoj.

En la maro apud Haneda aŭ Curumi Tokianoj fiŝhokas ĝenerale *ŝoosai-fugu*ojn.

Kiam oni frotegas la ventron de l' globfiŝo, ĝi plenblovas la ventron kiel globon. La nomo globfiŝo eble devenas de tiu fenomeno. Oni faras *fugu*-lanternojn per la epidermo de *tora-fugu* kaj ĝin eksportas al Ameriko.

Kiel vi bone scias la fiŝo portas en si la teruran venenon nomatan "tetrodo-toksino." La toksino troviĝas en la ovuoj, laktumoj, vejnoj, hepatoj k.t.p. nome en la internaj organoj de tiuj fiŝoj. Kaj tial se oni manĝas la fiŝon kune kun la internaj organoj, oni ofte veneniĝas kaj post nelonge devas morti. *Soosai-fugu*, la plej bone konata, ankaŭ portas multe da toksino, kaj *akame-fugu* estas la plej fortega por veneni homojn kaj havas ŝercnomon "*ki'amakura*" — en Japanujo la vorto signifas "mortolito" — ĉar kiam oni manĝas la fiŝon, oni devas tuj morti.

Kion oni sentas aŭ vidas post la veneniĝo de tiu tetrodotoksino? Laŭ la rakontoj de reviviĝintoj, kiuj eniris en la staton de ŝajna morto pro la veneniĝo kaj feliĉe povis sin savi, oni povas imagi la staton post la veneniĝo.

Ili diras: unue la membroj fariĝis sensentaj kaj poste la lango spasme kuntiriĝis kaj ili ne povis starigi sin.

Sed ili povis senti ĉion, kio okazis ĉirkaŭ si mem, iuj el ili povis aŭdi la tremantan voĉon de sia kara edzino, kiu lamentadas pri sia amito, la mortinta edzo en la sufoke fortega fumo de incenspulvoro. Aliaj ankaŭ povis aŭdi la melankolian voĉon de la bonzoj, kiuj solene legas

la sanktan skribon por la mortinto.

Laŭ supozo la mortantoj eble ankaŭ povas aŭdi la minacantan bruon, ke oni najladas la ĉerkon, kie li estas morte kuŝanta. Kaj ne povante diri eĉ unu vorteton, ili estas portataj al la tombo por enterigi.

Oni diras ke la toksino de l' globfiŝo atakas la nervo-centron kaj la veneniĝintoj travivas tiel teruran kaj abomenindan suferegon.

Mia profesio min devigis viziti la veneniĝintojn kelkajn fojojn ĝis nun.

En ĉiuj kazoj la veneniĝintoj mortis kaj malfeliĉe neniu el ili reviviĝis.

Iun tagon mi vizitis la domon de iu laboristo, kies edzino ĉirkaŭ 30-jara aĉetis globfiŝon (ŝoosai-fugu) kun internaj organoj de najbaro-fiŝvendisto kaj enmetis kelkajn pecojn de l' fiŝo en miso-supon. Unu aŭ du horojn poste ŝi kaj ŝiaj du filinoj jam komencis turmentiĝi. Kaj kiam la edzo revenis vespere de l' fabriko, ili jam estis trovitaj mortintaj.

La subuloj de Ŝimizu-no-Jiroĉo, fame konata heroo en Tokugaŭa epoko, preskaŭ ĉiuj mortis pro la veneniĝo de tiu fiŝo.

Tiel ne malmultaj homoj pereadas de tempo al tempo, kaj kial ili ne povas eviti la danĝeron de l' morto? Oni diras ke la globfiŝo estas tre bongustaj kaj ne povas ĉesi manĝi la fiŝon por eterne. Ĉu allogo de bongusteco estas pli forta ol de morto? Japana popoldiro diras "Globfiŝon mi volas manĝi, sed vivon mi domaĝas." Mi rekomendas al vi ke vi ne forgesu la teruran okazontaĵon pro la veneniĝo kaj ne risku vian vivon per la pecetoj de globfiŝo ne tiel manĝindaj.

Por resanigi la venenitojn oni elpensis multe da rimedoj, iom pravigindajn aŭ tute mistifikaĵojn, de antikva tempo. En kelkaj provincoj oni kuŝigas la mortintojn en kelojn aŭ grenojn por resanigi. Ankaŭ en aliaj provincoj oni enterigas la tutan korpon krom la kapo. Oni diras ke indigo estas bona kontraŭveneno kontraŭ la tetrodotoksino.

En la fino mi volas rakonti unu epizodon pri la

inces'plulvoro 線香。

melankolia 陰鬱な。

bonzo 僧侶。sankta

skribo 經文。naji

釘打つ。en'ter'igⁱ

埋葬す。nerv'o'-

centro 神經中樞。

miso-supu 味噌汁。

turment'igi 苦悶す。

fabriko 工場。sub'-

ulo 家來。bon'gusta

美味。al'logo 誘惑。

popol'diro 俚諺。

"globfiŝon... doma-

ĝas" = 河豚は食ひ

たし生命は惜し。

rekomendi すゝめ

る。riski 危険をお

かす。riski vivon

生命をまさに危険

を冒す。manĝ'inda

食ふ。價值ある。

re'san'igi 恢復さす。

venen'ito 中毒者。

el'pensi 考案す。

prav'ig'iuda 首肯で

きる。mistifika 神

秘な。kelo 地下室。

gren'ejo 土藏。

indigo 藍。kontraŭ'-

veneno 解毒劑。

epizodo 逸話。sola

filino 一人娘。Ne

ĉiam daŭras bona

vetero, nek ĉiam

daŭras mal'bona

vetero よい天氣も

永續きはしないが
 悪い天氣も永續き
 はしない意味。こ
 れでは、よい事許
 り永續しないさい
 ふためにかりてき
 たのみ。vana 無
 駄、無効。en bela
 kostumo 美装して。
 post'las'itaj 後に残
 された。rekte まさ
 もに。konsola vorto
 慰めの言葉。en'-
 tomb'iga ceremonio
 葬式。dezerta 人氣
 (どけ)のない。tomb'ejo
 墓所。fumo de in-
 censo 香煙。mal'-
 frua nokto 夜おそ
 く迄。figuro 姿。
 fantoma aper'ajo 幻
 影。spirito 幽霊。
 el'tomb'ig'inta 墓か
 らぬけでた。ĉirkaŭ-
 premi sin 抱擁する。
 vualo ヴェール。
 incens'baston'eto 線
 香。el'brul'inta も
 えつきる。ĉerko
 棺。fosi 掘る。
 hazarde 偶然。en'-
 puŝi ふみこむ。
 ne'atend'inta 不意
 の。re'konsci'ig'ante
 生氣にもごつて。
 akr'a'voĉe 鋭い聲
 で。

veneniĝo, kiun al mi diris mia kolego.

Ie estis tre bela fraŭlino en la provinco Tokushima kaj ŝi kolektadis al si la tutan amon de l' gepatroj, ĉar ŝi estis sola filino inter ili. Sed ne ĉiam daŭras bela vetero, nek ĉiam daŭras malbona vetero. Foje okazis ke ŝi estis venenita de globfiŝo kaj ĉiuj rimedoj resanigi ŝin estis tute vanaj. Fine ŝi estis enterigita vestite en plej bela kostumo. Postlasitaj gepatroj plorkriadis ĉirkaŭ la tombo, neniue povis rekte rigardi iliajn vizaĝojn kaj ankaŭ trovi konsolajn vortojn por ili. Post la foriro de ĉiuj partoprenantoj de entombiga ceremonio silento regis la dezertan tombejon, kaj nur restis kviete leviĝanta fumo de incensoj.

Reveninte hejmen la gepatroj ne povis dormi ĝis malfrua nokto, kiam subite aperis antaŭ ili la figuro de ilia filino ĉe la enirejo de l' domo. Belege vestita filino, kiun enterigis antaŭ horoj!

“Ho, mia kara filino!” Ili ne povis fidi siajn okulojn sed ĝi ne estis fantoma aperaĵo nek spirito tamen ĝi estis la filino reviviĝinta kaj eltombiĝinta. Ili ĝoje ĉirkaŭpremis sin reciproke krj plorkriegis pro ĝojego. Sed kia mirinda okazintaĵo! Kiamaniere ŝi povis eliĝi el la tombo post la reviviĝo en la ĉerko?

Kiam kovris la malluma vualo de l' nokto la tutan tombejon, kaj estis senteblo nur malforta odoro de incensbastonetoj, kiuj estis tuj elbrulintaj, subite aperis unu nigra figuro, kiu proksimiĝis al ŝia tombo kaj komencis elterigi la ĉerkon. Li fosadis la teron pli kaj pli profunden. Hazarde li faletis kaj enpuŝis la piedojn en la kavon, kiun li elfosis, kaj romp's la kovrilon de l' ĉerko. Pro la neatedita bruego la filino iom rekonsciigante rekaptis la vivon kaj akravoĉe petis la savon, forte prenante la piedon de l' fripono, kiu surprizite de la kriego forkuregis for de l' tombo. Oni diras ke li estis ŝtelisto kaj venis al la tombo por ŝteli ŝiajn belajn vestojn kaj ornamaĵojn... Tiamaniere la filino povis reveni al nia mondo.

PRILINGVA RUBRIKO

[Kolekto de eltiroj represitaj el diversaj esp. gazetoj]

„Same, la ĉiam pli plena forigo de la malsimplaj fleksioj de l' indo-eŭropa lingvo dum la evolucio de la diversaj dialektoj povas esti klarigita per ĝenerala formulo montranta la psikan kaŭzon de l' fenomeno. Jam en la komuna epoko indo-eŭropa la formoj karakterizantaj ununuran gramatikan kategorion estis diferencaj laŭ la vortoj kaj ankaŭ laŭ aliaj gramatikaj kategorioj; — Nu, ĉie kaj ĉiam la lingvoj emas forigi tiam malunuecon kaj akcepti unuecon de formo por unueco de gramatika rolo kaj signifo. Tia rezultato riceviĝas per diversaj rimedoj, ofte per ĝeneraligo de unu procedo; alia procedo tre ofte uzata estas forigo de tro malsimplaj formoj.“

Ĉu Esperanto ne estas perfekta aplikajo de tiuj principoj? Ni ja vidas ĉie en ĝi perfektan „unuecon de formo por unueco de gramatika rolo“; ĉiuj nomoj de instrumentoj finiĝas per *-ilo*, ĉiuj nomoj de profesiuloj per *-isto*... — „unueco de formo por unueco de signifo.“

Kaj en la verboj troviĝas vere miriga „ĝeneraligo de unu procedo“ kaj samtempe ankaŭ „forigo de tro malsimplaj formoj.“ Nur unu konjugacion ja hovas Esperanto absolute ĝeneralan kaj regulan por ĉiuj verboj, kaj en ĉiu tempo ĉiuj personoj idente finiĝas. Aliparte ĝi ĉiam uzas formojn kiel eble plej simplajn, kiel ezemple en la tempo de l' estinteco la senparticipan formon „*mi vidis*“, anstataŭ „*mi estis vidinta aŭ mi estis vidanta*.“

Al tiuj personoj, kiuj asertas, ke arta lingvo ne povas ekzisti, ni do povas montri, ke Esperanto ĝuste obeas la naturajn leĝojn, kiuj regas la lingvojn en ilia evolucio, kaj diferencas de ili nur per sia miriga reguleco kaj facileco.

Sed ĉu tia evolucio mem ne estos iam kaŭzo, ke la esperantistoj ĉesos interkompreniĝi? Ĉu la estonta „evolucio“ de Esperanto ne fariĝos malsama en diversaj partoj de tiu grandega lando, kiu estas Esperantistujo?

Ankaŭ tiun demandon respondas s-ro Meillet, studante en sia leciono la socialajn kaŭzojn de la lingvaj okazoj. „Lingvo,“ li

diras, „estas esence sociala fakto. Oni ofte rediras, ke lingvoj ne ekzistas ekster la homoj, kiuj ilin parolas, kaj sekve oni ne rajtas aljuĝi al ili sendependan ekziston, propran vivon. Tio estas evidenta konstato, sed nenion pruvas, kiel la plimulto el la evidentaj diroj. Kvankam realeco de lingvo ne estas io materia, ĝi tamen ekzistas, tiu ĉi realeco estas samtempe lingva kaj sociala.

Ĝi estas lingva, ĉar lingvo konsistas el malsimpla sistemo de esprimoj, en kiu ĉiuj partoj estas kunligitaj, kaj en kiu individua novaĵo maljaacile povas akceptiĝi, se, devenante de pura kaprico, ĝi ne ĝuste akordiĝas kun la ĝeneralaj reguloj de la lingvo.

Laŭ alia vidpunkto la realeco de lingvo estas sociala: ĝi rezultas el tio, ke lingvo apartenas al difinita aro da parolantaj homoj, ke ĝi estas komunikilo inter la membroj de unu grupo, kaj ke neniu el la membroj de la grupo povas fari en ĝi ŝanĝojn. La neceso, mem esti komprenata, trudas al ĉiuj membroj konservadon de la plej plena identeco de la lingvaj uzoj. Ridindeco estas la tuja puno de ĉiuj individuaj deflankiĝoj, kaj en la modernaj societoj oni rifuzas la ĉefajn oficajn, per ekzameno, al tiuj el la landanoj, kiuj ne scias obei la regulojn de la lingvo kelkfoje iom arbitrajn, sed konsente akceptitajn de la tuta anaro. Kiel tre bone diris S-ro Bréal en sia *Essai de Sémantique*, la limigo de la libereco, kiun havas ĉiu homo, fari ŝanĝojn en sia lingvaĵo, „devenas de la bezono, esti komprenata, t. e. ĝi estas samspeca kiel la aliaj leĝoj regantaj nian socialan vivadon.“

Ni do ne timu, ke iam ni ne povos nin kompreni reciproke per Esperanto; pri tio nin trankviligas la plej eminentaj majstroj de la lingvoscienco. Ĉu tio signifas, ke nia lingvo neniam kaj neniel ŝanĝiĝos kaj evolucios? Tute ne same kiel evolucias la propraj lingvoj de la diversaj landoj, tiel ankaŭ povos evolui la lingvo de Esperantujo; sed same kiel la loĝantoj de tiuj landoj ne ĉesas eĉ unumomente kompreni unu la alian, tiel ankaŭ ĉiam interkompreniĝos la loĝantoj de Esperantujo.

(P. Corret.)

— Esp.-Praktiko, 1928/VII —

SKIZOJ DE INDONEZIAJ POPOLOJ

Porf. E. Asai, Osaka Kolegio de Fremdaj Lingvoj

Filipinaj Rakontoj.

Jen peceto de la popol-rakontoj en la Filipina Insularo. Komparu la unuan rakonton kun japana popol-rakonto "Batalo inter Simio kaj Krabo" kaj la duan kun japana "Konkuro inter Leporo kaj Testudo." Mi tradukis litere el la tagala originalo donita en "Tagalog Texts, 1917 Urbana." de L. Bloomfield.

1. SIMIO MALSAGA KAJ TESTUDO SAGA.

Iam dum testudo naĝis en rievero, li vidis unu bananujon vagnaĝantan kaj forkondukantan de la fluo. Li ĝin trenis ĝis la bord, sed ne povis porti sur la teron. Pro tio li alvokis sian amikon simion, kaj li proponis duonon de la bananujo, se la simio plantos lian parton. La simio konsentis kaj ili dividis la arbon de bananoj ĉe la mezo de ambaŭ finoj. La simio prenis la duonon, kiu havas foliojn, ĉar li pensis ke tiu kreskos pli bone ol la duono sen folioj.

Kiam kelkaj tagoj pasis, la arbo de la simio mortis, kaj tiu de la testudo kreskis ĝis ĝi portis fruktojn. Multaj bananoj maturiĝis, sed la testudo ne povis supreniri. Pro tio li vokis sian amikon simion, kaj proponis kelkajn fruktojn de bananoj, se li supreniros la arbon. La simio supreniris kaj manĝis plej multe kiel eble.

La testudo diris: "Faligu por mi!"

Sed la simio respondis: "Kvankam la ŝeloj estas bongustaj, mi ne volas faligi."

La testudo koleriĝis kaj disĵetis dornojn ĉe la malsupro de la arbo. Kian la simio saltis (malsupren), la dornoj lin pikis. Li suspektis la testudon kaj lin serĉis por puni. La simio trovis la testudon malantaŭ stumpo.

Li diris al la testudo: "Mi vin punos. Elektu inter du. Ĉu mi vin pistos en pistvazo aŭ dronigos en la rivero?"

La saĝa testudo komencis kriegi kaj petis al la simio pisti lin en pistujo.

Sed la simio respondis: "Mi donos al vi la punon, kiun vi ne ŝatas."

Kaj la simio lin ĵetis en la riveron.

[インドネシア民族]——浅井教授。

【註】popol'rakonto 傳説。simio 猿。testudo 龜。banan'ujo バナンの木。vag'naĝ'anta 漂流す。for'konduk'anta de l' fluo 水の流れに流されてゐる。treni ひきする。al'voki 呼びよ

す。proponi 申出る。planti 植える。kreski 生長す。porti fruktojn 果實をもつ。plej multe kiel eble できるだけ多く。fal'igu おこせ。ŝelo 果皮。dorno 刺(よ)。stumpo 切株。pisti 臼でつく。pist'vazo = pist'ujo 臼。dron'igi 溺れ

Kiam la testudo alvenis al la akvo, li kriegis kaj diris al la simio:
 “Dankon, amiko! Tiu ĉi estas mia loĝejo!”

2. KONKURO INTER CERVO KAJ LIMAKO.

Cervo paŝtiganta en arbaro renkontis limakon rampantan sur foli de bambuo. La cervo ĉesis sin paŝti kaj rigardis malrapidan rampadon de la limako. Post kelkaj momentoj li diris al la limako: “Kiel malrapide vi marŝas! Kiel vi ne lernas rapidan iradon? Rigardu min, mi estis ofte persekutata de hundoj, sed mia rapida kuro savis al mi la vivon. Sed rigardu min, se vi estos persekutata de iu amiko, kio okazos al via vivo? Estas certe, ke vi estos mortigita.” Aŭdinte tiujn vortojn, la limako rigardis la cervon kaj studis lian belan korpon, liajn longajn krurojn kaj liajn fortajn muskolojn. Li deziris, ke li ankaŭ estu kiel la cervo por ke li povu kuri rapide. Sed li pensis, ke li ne estos multe postlasita de la cervo, se li penos kuri.

Tial li respondis al la cervo: “Vi estas fiera. Vi ne suspektas, kion faras tiu, kiu havas fortan volon. Mi invitas vin kuri kun mi de tie ĉi ĝis la rivero, kiu estas okcidente de tie ĉi.”

La cervo ridigis kaj respondis al la limako: “Kial vi pensas ke vi min venkos? Certe vi min trompos.”

La limako respondis, ke li ne trompos, kaj por observi nin kaj juĝi nian kuron li proponis voki unu el siaj amikoj por ke li fariĝu juĝanto.

La cervo konsentis kaj ili vokis strigon, por ke li estu juĝanto.

Kiam ili komencis kuri, la limako multe postlasiĝis. Dum kurado la cervo pasis tra herboriĉa herbejo. Li haltis por sin paŝti, ĉar lia supereco kontraŭ la limako estis granda. Li projektis ke li kuros ree, kiam li vidos alvenon de la limako. Sed kiam li paŝtigis, li estis venkita de mallaboremo. Li dormis kun la penso ke li vekiĝos antaŭ ol la limako alvenos.

Sed dum li estis dormanta, la limako preterpasis. Kiam li vekiĝis, jam estis malfrua posttagmezo.

Li kuris plej rapide kiel eble al la rivero, kaj tie li renkontis la limakon kaj la juĝanton strigon.

“Vi estas venkita,” tuj diris ilia juĝanto.

さす。konkuro 競争。cervo 鹿。limako なめ
 くじ。paŝt'iĝi=sin paŝti 牧草をくふ。rampi
 匍ふ。bambuo 竹。observi 観察す。juĝi 裁
 く。strigo 梟(フ)。post'las'iĝi おくれる。herb'-
 o'riĉa 草の多い。herb'ejo 草原。supereco 優

越性。venk'ita まかされた。al'veni 到達す。
 post'tag'mezo 午後。

以上フィリピンの説話は本文の始めに書いてある様に第一話は日本の猿蟹合戦に第二話は鶴亀競争と似てゐて興味が深い。

Adorklinigu antaŭ la Ĉoscianto!

Tiel de mi estas aŭdite:

Iam la Adorato estis en Śravastilando, en la Arbareto de Ĝeta, en la Ĝardeno de Anathapindada,¹⁾ kune kun grandnombra Bhikshuaro²⁾—mil ducent kvindek Bhikshuoj, grandaj disĉiploj, Arhatoj³⁾ kun transcendaĵ scipovoj,⁴⁾ el kiuj la plej distingitaj estis: Estimata Śariputra, Granda Maŭdgalajana, Granda Kaśapa, Granda Kapphina, Granda Katjajana, Granda Kaŭstila, Revata, Śuddhipanthaka, Nanda, Ananda, Rahula, Gavampati,

1) Anathapindada. La vorto signifas: Tiu kiu donadas ĉiutagan panon al senparenculoj; alnomo donata al la bonfaranta riĉegulo Sudatta. Ĥinlingve 給孤獨.

2) Bikṣu'. Almozulo, samtempe Budhana monaĥo aŭ konzo, ĉar ĉi tiu devas vivadi almoze. Ĥinlingve 比丘, 必努. Elparolu ŝan laŭlitere, sed ne kiel ŝ.

3) Arhat'. Titolo al la sanktulo kiu havas meri'on aŭ indecon ricevi sanktan dediĉaĵon. Ĥinlingve 阿羅漢, 應供.

4) Transcendaĵ scipovoj (abhiĝṇa). Da tiel nomataj scipovoj aŭ fakultoj, Budhana sanktulo estas dirata posedi kvin: 1° fari miraklon, 2° travidi ĉion, aŭ posedi diecajn okulojn, 3° aŭdi kaj kompreni lingvon de nehoma kreitaĵo, aŭ posedi diecajn orelojn, 4° legi penson de alia homo, 5° scii sian antaŭnaskan ekzistadon.

LA SUKHAVATIVJUHO

Budha sankta skribo pri la Mondo de Feliĉo kreita de la Tathagato Amitaĵus.

El la sanskrita originalo esperantigis

Kiucĉi Nohara

Bharadhvaĝa, Kalodajin, Vakkula, Aniruddha k. t. p. Kaj krom ĉi tiuj grandnombraj grandaj disĉiploj, estis ankaŭ tie grandnombraj Bodhisatvoj-Mahasatvoj,⁵⁾ el kiuj la plej distingitaj estis: Maṅgūśri la Juna Princido, Bodhisatvo Aĝita, Bodhisatvo Gandhahastin, Bodhisatvo Nitjodjukta, Bodhisatvo Aniksiptadhura k. t. p. Kaj krom ĉi tiuj grandnombraj Bodhisatvoj-Mahasatvoj, estis ankaŭ tie Ŝakro, la reĝo de dioj, Brahmano, la estro de la mondo Saha. Kaj krom ĉi tiuj estis ankaŭ tie multaj centmilm'riadoj da diidoj.

Tiam la Adorato alparolorante al la plejaĝulo Ŝariputra diris: "Ŝariputra, de tie ĉi okcidenten transpasinte tra centmil dekmilionoj da Budhaj regno, troviĝas unu Budha regno, la Mondo Sukhavati (mondo de feliĉo). Tie Tathagato⁶⁾-Arhato-Vervekiĝinto nomata Amitajus (supermezura vivo) nun loĝas, sin subtenas, travivadas, kaj instruadas la Leĝon. Nu, Ŝariputra, kion vi pensas pro kio tiu mondo estas nomata Sukhavati? Vere mi diras al vi, Ŝariputra,

5) **Bodhisatvo** (Bodhisattva). Sanktulo la plej proksima al Budheco; bodhi (vekiĝeco, intelekto)+sattva (estaĵo). **Mahasatvo**. Al a titolo donata al la sama sanktulo; Mahā = granda. Ĥinlingve 菩薩. 摩訶薩.

6) **Tathagato** (Tathagata). Unu el la titoloj donataj al ĉiu Budho; la vorto signifas "tiel konduiti" t. e. tiu kiu kondukas tiel kiel la Vero. (如來)

tie en la mondo Sukhavati, ne ekzistas por la estaĵoj ia doloro ĉu korpa ĉu spirita, sed nur ekzistas sennombraj fontoj de feliĉo; pro tio tiu mondo estas nomata Sukhavati.

"Kaj, Ŝariputra, la Mondo Sukhavati estas ornamita per sep balustradoj, sep vicoj da palmirarboj,⁷⁾ kaj pendantaj tintilretoj, kaj ĉirkaŭata de la vidinde belegaj kvarspecaj gemoj: oro, arĝento, berilo, kaj kristalo. Tiamaniere, Ŝariputra, per la meritoplenaj ornamaĵoj de Budha regno, solemnigata estas tiu Budha regno.

"Kaj, Ŝariputra, en la Mondo Sukhavati, troviĝas lotuslagetoj konstruitaj el sepspecaj gemoj: oro, arĝento, berilo, kristalo, ruĝa perlo, diamanto, kaj koralo la sepa gemo. Akvo kun ok virtoj⁸⁾ ilin plenigas ĝis vadejo, tiel ke ĉe korvo povas eltrinki tie. La fundo estas sternita per cersablo, kaj ĉe la kvar flankoj ĉirkaŭ la lagetoj troviĝas kvar ŝtupoj ornamitaj per la kvarspecaj gemoj: oro, arĝento, berilo, kaj kristalo. Kaj sur la ĉirkaŭbordo de la lotuslagetoj, kreskadas gemecaj arboj ornamitaj per la vidinde belegaj sepspecaj gemoj:

7) **Palmirarbo**. Sanskrite Tāla; anglolingve palmyra; ĥinlingve 多羅.

8) **Ok virtoj** (akvo kun). Tiel nomata estas la akvo kiu havas jenajn ecojn: 1° dolĉeta, 2° malvarma, 3° mola, 4° malpeza, 5° pura, 6° senodora, 7° ne difektanta la gorgon kiam oni ĝin trinkas, 8° ne difektanta la inteston post kiam oni ĝin trinkis. (八功德水)

oro, arĝento, berilo, kristalo, ruĝa perlo, diamanto, kaj koralo la sepa gemo. Kaj en ĉi tiuj lotuslagetoj kreskadas diversspecaj lotusfloroj: bluaj, blukoloraj, blubrilaj, bluaspektaj; flavaj, flavkoloraj, flavbrilaj, flavaspektaj; ruĝaj, ruĝkoloraj, ruĝbrilaj, ruĝaspektaj; blankaj, blankkoloraj, blankbrilaj, blankaspektaj; miksaj, miks koloraj, miksbrilaj, miksaspektaj — tiom larĝegaj kiom vagonradoj. Tiamaniere Ŝariputra, per la meritoplenaj ornamaĵoj de Budha regno, solenigata estas tiu Budha regno.

“Kaj, Ŝariputra, en tiu Budha regno, estas ĉiam surludataj ĉielaj muzikinstrumentoj, kaj tie la tero estas ŝateginde orkolora. Kaj en tiu Budha regno, ĉiunokte tri fojojn, ĉiutage tri fojojn, pluvadas pluvo da ĉielaj Mandaravaj floroj. Ĉiuj tie naskiĝintaj estaĵoj antaŭtagmanĝe en aliajn mondojn irante adoras la centmil dekmilionajn Budhajn, kaj al ĉiu Tathagato dediĉante pluvon da centmil dekmilionoj da floroj, revenas en sian mondon por fari ĉiutagan servon. Tiamaniere, Ŝariputra, per la meritoplenaj ornamaĵoj de Budha regno, solenigata estas tiu Budha regno.

“Kaj, Ŝariputra, en tiu Budha regno, sin trovas flamengoj, Kalavinkoj, skolopoj, kaj pavoĵoj. Ĉiunokte tri fojojn, ĉiutage tri fojojn, ĉi tiuj birdoj faras koncerton, ĉiu kantante en sia propra lingvo; kaj el ilia kantado

aŭdiĝas la voĉo de la kvin virtoj,⁸⁾ la kvin povoj,⁹⁾ kaj la sep eroj de vekiĝeco.¹⁰⁾ Ĉe la homo aŭdinta tiun voĉon, naskiĝas pripenso pri Budho, naskiĝas pripenso pri Leĝo, naskiĝas pripenso pri Eklezio. Kaj, Ŝariputra, ĉu vi do pesnas tiuj estaĵoj esti bestaj kreitaĵoj¹¹⁾ (t. e. kondamnitoj)? Ne, nenial faru tian vidon. Kial? En tiu Budha regno, Sariputra, koncerne al Infero, besto, aŭ la regno de Jama,¹²⁾ eĉ la nomo ne ekzistas. Sed tiu birdaro estas kreita de la Tathagato Amitajus, por ke ili kantadu en la voĉo de la Leĝo. Tiamaniere, Ŝariputra, per la meritoplenaj ornamaĵoj de Budha regno, solenigata estas tiu Budha regno.

“Kaj, Ŝariputra, en tiu Budha regno, kiam la vicoj

8) **Kvin virtoj** (pañcendrijani). 1° kredado, 2° penado, 3° rememorado, 4° koncentrado, 5° saĝeco aŭ antaŭvido. Ĥinlingve 五根.

9) **Kvin povoj** (pañca balani). Efektivigaj povoj de la kvin virtoj. Ĥinlingve 五力.

10) **Sep eroj de la Vekiĝeco** (Sapta Bodhjangani). 1° rememorado, 2° distingo aŭ elekto de la Leĝoj, 3° penado, 4° ĝojeco, 5° trankvileco, 6° koncentrado, 7° indiferenteco. (七覺支, 七菩提分)

11) **Besta kreitaĵo**. Sanskrite tirjagjonigata, Ĥinlingve 傍生惡趣. Ĉe la Budhanoj, ĉi tiu vorto samtempe signifas kondamnito aŭ malbenito (almenaŭ kunrememorigas). Jen kialo. Laŭ Budhismo, tiuj animoj kiuj ankoraŭ ne estas redemptitaj je la pekado de siaj antaŭnaskaj vivoj devas esti alligataj al bestaj korpoj por ĉiam rondiradi kaj rondiradi en la metempsikoza vojo. Kompreneble tiaj estaĵoj ne konformiĝas al la Lando de Feliĉo.

12) **Jama**. La dio-punanto de mortintoj. Ĥinlingve 琰魔, 閻魔.

👉 學 會 取 次 洋 書 目 錄 👈

★洋書は如何なる場合でも前金注文でなければお送り致しません★

~~~~~ 好 讀 物 ~~~~~

定價(圓料紙)

- ★Vortoj de Cart エスペラント學士院長 Cart の論說全集、勁拔模範の筆致 .....1.10 (6)
- ★Fatala Ŝuldo 過去を透視する不思議な婦人の力、因果律の巧なる小説化 .....1.10 (8)
- ★Karto Mistera 運命を繰る奇々怪々のカード、巴里の秘密、Payson 老譯 .....0.30 (2)
- ★Antikva Romo Surmare 世界の大立物黒シャツの宰相 Mussolini の著述 .....1.00 (6)
- ★Pro Kio? 犯人追ふて國 的大舞臺の大立ち廻り、原作探偵小説 .....1.30 (4)
- ★Kantistino 舞臺の花たる歌ひ女の運命は華か惨か、有名な Hauff の作 .....0.40 (2)
- ★Aspazio 波蘭代表作 Sviatohovski 悲劇、Majstro の舎弟 Leono Zamenhof 譯 .....0.80 (4)
- ★Vivo de Zamenhof 『愛の人ザメンホフ』傳、Privat 博士著、萬人必讀の聖典 .....1.60 (6)
- ★Advokato Patelin Bueys 及 Palaprat 合作三幕喜劇、Evrot 譯、佳譯 .....0.30 (2)
- ★Sokrato 巴里大會で上演のため譯せる Richet 作韻文劇、J. Couteaux 譯 .....0.65 (6)
- ★Amfitriono 喜劇王モリエール作三幕物韻文喜劇、Legrand 譯、平易 .....0.55 (4)
- ★Bukedo 原作及び各國よりの翻譯の興味多き作品を集めたるもの、二巻で .....0.60 (4)
- ★Etiko Kropotkin 著『倫理學』S. A. T. 發行物 .....1.00 (6)
- ★Kion rakontas la Amikoj de Peĉjo? プロ少年用の fabelo, S. A. T. 發行 .....0.35 (2)
- ★Nur volu プロ讀み物、戦禍を去れ、多數挿繪入り .....0.40 (2)
- ★★Galerio de Zamenhofoj ザメンホフ先生一家の人々の肖像集、附録系圖 .....0.55 (2)
- ★Oni Ridis 面白い笑話を集めたもの、表題の示す如く一語頭をさく .....0.30 (2)
- ★Abismoj 構想の奇、描寫 妙、エス原作界の麒麟兒 Jean George 作小説 .....1.55 (4)
- ★Lilio 女流作家として有名な露洲 Sinnotte 夫人の原作小説 .....1.35 (6)
- ★International Radio-Manual エス英ラヂオ辭典、説明挿繪入 .....0.15 (2)
- ★Stranga Heredaĵo エス原作大家 Luyken の大作、興味津々人物活躍 .....2.85 (8)
- ★Palaco de Dangero 妖艶 Pompadour 夫人戀愛葛藤、Payson 老譯、美本 .....3.10 (6)
- ★Malŝparulo 十九世紀オーストリー知名 劇作家 Raimund 作、Zwach 譯 .....1.05 (4)

★Esperanta Biblioteko Internacia 叢書 各號 0.18 (2)、倍號の定價はその倍數

- 4. Rusaj Rakontoj 夢の様になつかしいロシアの童話、初等の讀物として好適。
- 10-11. Japanaj Rakontoj 千布利雄氏編、舌切雀、鼠の嫁入、松山鏡、満珠干珠、浦島等。
- 12. Amoro kaj Psiĥe Amoro (キューピッド) 神と美少女 Psiĥe この戀物語。
- 14-15. Reaperantoj 北歐の文豪イブセンの劇幽霊、Bünemann 譯。
- 16. Komerca Korespondo 各種商業上の用句、用例を集めたるもの、至便。
- 17. Konsiloj pri Higieno 通俗な家庭衛生顧問、何人も心得置くべきこと。
- 20. La Lasta Usonano 西曆 2051 年トルエの探検隊が New York の廢趾での發見。
- 21. Hungaraj Rakontoj 世に知られぬハンガリー文學の紹介、Herczeg の短 集。
- 22. Nordgermanaj Rakontoj 朔風威をふるふ北獨逸の代表作品。
- 24. La Instituto Milner Jean Jullien 作『戀愛學校』表題の如く奇抜な内容。
- 25. Noveletoj el la Nigra Arbaro 西南獨逸の『黒森』地方の特長ある小説。
- 26. La Intervidiĝo なほ Nekonita Dialogo を附す、興味ある歐洲政治の裏面史。
- 27. La Patrino 瑞西文壇の一人者 Ernst Zahn の小説、譯は J. Smid.
- 29-30-31. Sub la Neĝo Porchat 作、青少年に好適な平易にして興味ある物語。
- 32. La Amkonkurantoj Reinhold Schimdt 三幕喜劇戀愛競爭。

★Internacia Mondliteraturo 各篇世界の代表的文藝作品、譯は何れも推賞に値するもののみ、各號 0.70 (4) 倍號は 1.40 (6)。

- |                                |                                |
|--------------------------------|--------------------------------|
| 1. Hermano kaj Doroteo, Goethe | 3. Elektitaj Noveloj, Turgenev |
| 2. Legendoj, A. Niemojewski    | 4. La Nigra Galero, W. Raabe   |



5. "Camera Obscura" Hildebrand
6. El la Skizlibro, Wash. Irving
7. La mirinda historio, Chamisso
8. Nuntempaj Rakontoj, Stamatov
9. Hebreaj Rakontoj, Ŝalom-Aleĥem
10. Tri Noveloj, Puŝkin
- 11-12. Deklaracio, T. Ariŝima
13. Ses Noveloj, Allan Poe

14. La firmao de la kato, Balzac
15. Orientaj Fabeloj, Doroŝevič
16. Noveloj, Sienkiewicz
17. Insulo de feliĉuloj, Strindberg
18. Barbaraj Prozajoj, Bertrana
19. Ano de l' ringludo, Ŝimunoviĉ
20. Servokapabla! Eekhoud
21. Nobela Peko, Sadoveanu

★Biblioteko Tutmonda 最も多方面の文獻を集めた叢書、各 Serio ..... 2.00 (8)

Serio I (六冊): Mateo Falcone, Mérimée. La Malgranda Johano, Eeden.  
La Arto de Memdisciplino, Psikagogio, Baudouin. Norda Vento, Karinthy.  
La Sonĝa de Makaro, Korolenko. Niĉjo Mensogulo, Voinesti.

Serio II (五冊): Grekaj Papirusoj, Penndorf. La Vojaĝo, Munchausen.  
La Kapitanfilino, Puŝkin. La Homaj Lingvoj, Collinson.  
Bonhumoraj Rakontoj.

### ~~~~~ 新 着 書 ~~~~~

- ★Sinjoro Tadeo 波蘭の詩聖 Mickiewicz 著三百頁の大作、Grabowski 譯 ..... 2.60 (8)
- ★Malnevaj Paĝoj 1896 年の Lingvo Internacia 誌に出た十四篇を輯む ..... 0.40 (4)
- ★La Nevo kiel Onklo 獨文豪 Schiller 作三幕喜劇、Ch. Stewart 譯 ..... 0.20 (2)
- ★Mallumajoj ハンガリー知名の A. Arpad 作小説、L. Pal 譯 ..... 0.20 (2)
- ★Barbra 英文壇に名をあげた Jerome K. Jerome 作の一幕劇 ..... 0.55 (2)
- ★Boks kaj Koks John Maddison Morton の一幕喜劇、譯は Ch. Stewart ..... 0.15 (2)
- ★Bombasto Furioza Barnes Rhodes 作悲喜劇のオペラ、Ch. Stewart 譯、繪入 ..... 0.10 (2)
- ★Elektitaj Humoraj Rakontoj 名の如く滑稽物語九篇を集めた好箇の讀物 ..... 0.20 (2)
- ★Aventuroj de l' Lasta Abenceraĝo Granado 王朝亡命時代の物語 ..... 0.15 (2)
- ★Du Rakontoj D. de Rothau の原作短篇小説二篇、行文流暢 ..... 0.30 (2)
- ★Fundamento de Kvakerismo 英國の生んだ新教ケーガー宗教義解、大冊、Butler 譯 ..... 0.95 (6)
- ★Malbela Anasido Andersen お伽噺一篇、初級讀本として發行せるもの ..... 0.05 (2)
- ★Natan la Saĝulo 有名なレッシングの美しい韻文劇、Karl Minor 譯 ..... 1.00 (4)
- ★Morto de Danton A. lita の作者たる A. Tolstoj のフランス革命を題材の劇 ..... 0.85 (2)
- ★La Tajdo エス文壇知名の N. Hohlov の詩集、心の高調を詠じたる四十篇 ..... 0.65 (2)
- ★Verdaj Fajreroj 静寂憂鬱の裡に燃る火熱はこの Romano Hankel の詩集である ..... 0.40 (2)
- ★Kuzeto 波蘭文豪 M. Balucki 作、甘き戀的一幕物、譯は Grenkamp 模範的 ..... 0.12 (2)
- ★Post la Granda Milito Zamenhof 唯一の政治意見の文獻、眞に傳言者の言 ..... 0.06 (2)
- ★Ŝakludado 將棋にかけた命と戀、Giacosa の南國情調 韻文劇 ..... 0.35 (2)
- ★Cavalleria Rusticana 場面はシシリー島の一隅、G. Verga の劇 ..... 0.35 (2)
- ★De Apeninoj ĝis Andoj E. de Amicis 作、少年少女の讀み物としての物語 ..... 0.30 (2)
- ★Rido Sanigas! 笑ふ門には福來る! 面白い笑話數十を集めたもの ..... 0.20 (2)
- ★La Ĉaso al Diablo 滑稽間違物語、U. E. Bersetzerre 作小品 ..... 0.15 (2)
- ★Anekdotoj pri Dante 詩聖ダンテに関する小話、Migliorini 譯 ..... 0.15 (2)
- ★Vi sola, Esperanto, povas fari tiajn miraklojn 受賞原作小劇 ..... 0.18 (2)
- ★Montecatini 鑛泉と洞窟とで有名な同地の案内記、繪入、地圖付 ..... 0.85 (2)
- ★Lecionoj de Tipostenografio 印刷も出来る新案速記術教科書 ..... 0.35 (2)
- ★El la Landoj de Ruinoj 波蘭 Wyslouch の散文詩、Grenkamp 譯 ..... 0.12 (2)



- ★La artefarita "Altmontarsun"-bano 人工高山日光浴療法に就て .....0.10 (2)
- ★Ilustrita Biblioteko, II-a Serio 各號 0.25 (2)、倍號は倍、Serio 四冊で .....1.10 (4)
- 6-7. La Ŝipĉarpentisto 浪にゆられて外つ國を巡る船乗りの物語。
8. El "Navigado estas necesa" 漁村に生れ海に死んだ詩人 Goch Freck の物語。
9. Gudrun 北海のほそりを舞臺とする中世紀の海の傳説詩、Teo Jung 筆。
10. La hantataj ŝipoj 『幽霊船』及 Ŝuldpedelo sur la Maro 二篇。
- ★R. U. R. (Rossum's Universal Robots) 有名な Čapek の『人造人間』——その人造人間が遂に戀愛を感じたり勞働爭議を始める。好箇銷夏の讀物 .....1.00 (6)
- ★La Koboldo Ondra 少年、森、森の鬼、赤い小旗の誘惑——一風違つたお伽噺 .....0.15 (2)
- ★La Revizoro 露文豪ゴーゴルの喜劇。譯筆輕妙。一讀抱腹絶倒 .....0.80 (4)
- ★Prozo Ridetanta Schwa tz 氏得意の奇文集。本年度 Akademio で入賞 .....1.50 (6)
- ★Rompantoj Valjes がバルセロナの大會に自演して好評を博した獨白五篇 .....0.40 (2)
- ★Aspazio Svjenohovski 作 Leono Zamenhof 博士譯。悲劇 .....0.80 (4)
- ★Verdkata Testamento Schwartz 氏得意の諧謔詩數十篇 .....1.00 (8)
- ★Manon Lescaut 映畫小説でしられたマノン・レスコオ .....1.10 (4)
- ★Tatterly 奇々怪々探偵小説 Tom Galton 作 Wilson 譯 .....0.55 (4)
- ★Krioj de l' Koro 雄辯士の一人者 Grenkamp が青春の詩集 .....0.15 (2)
- ★La Reĝo Lear 末娘に救はれる悲慘なリヤ王の話。沙翁悲劇、並製 .....1.45 (6)
- ★Landoj de Fantazio Heroldo 主幹 Teo Jung 快作。——上製 .....2.65 (12)
- ★Taglidro de Vilaĝ Pedelo Blicher 作 Bultuis 譯。人生の指針 .....0.30 (2)
- ★Matrica en Spirito 原作界の大家 Bultuis 作の二幕劇 .....0.30 (2)
- ★Inicado Matematika 兒童に實地的に興味本位に數學を教へる本 .....0.40 (4)
- ★Evoluo de Telefonio 電話器の發達について挿繪入 .....0.55 (2)

### ~~~~~ 學 習 良 書 ~~~~~

- ★Esperanto per Instruaj Bildoj (Bildotabuloj) 20×26 cm. の大版、36 の寫眞版で。  
ホテル、郵便局、停車場、男女服支の部分品名等實地教授式、104 頁 .....1.90 (6)
- ★Esperanto, Grammar and Commentary 英語書きの最も詳しい獨習書、390 頁 .....1.90 (6)
- ★Grammaire Complète フランス語書きの最も詳しい獨習書、177 頁 .....0.40 (4)
- ★Cours méthodique: Thèmes 上記 Grammaire 附屬の作文例題集、134 頁 .....0.40 (4)
- ★Petit Cours Primaire d'Esperanto 繪入で小供にも向く初歩教科書、136 頁 .....0.35 (4)
- ★Esperanto 斯界の權威 P. Christaller 教授著、獨逸語書き最良の獨習書 .....0.55 (4)
- ★Unua Legolibro D-ro Kabe 著讀本、小話小説會話日用文を収む初學者必携 .....0.70 (4)
- ★Supera Kurso 高等エスペラント教科書として評判の言語委員 D-ro Dreher の著 .....0.45 (2)
- ★Millidge エス英辭典 .....4.40 (6)
- ★Rhodes 英エス辭典 .....2.00 (12)
- ★Benneman エス獨辭典 .....2.15 (4)
- ★Benneman 獨エス辭典 .....4.35 (8)
- ★Maŝinfaka Terminaro エス獨、獨エス機械工學辭典 .....1.15 (2)
- ★Naŭlingva Etimologia Leksikono エス英佛獨等九國語對照語源字典 .....1.35 (6)
- ★Fundamento de Esp. 心ある esp-isto は何人も必携のもの .....0.55 (4)
- ★Lingvaj Respondoj ザ博士の語學上の質疑應答集 .....0.70 (4)
- ★Refleksiva Pronomo Akademio 文法部長 Lippmam 氏の研究發表 .....0.25 (2)



本邦で出版の學會取次書目録 (註文は前金に依る) (學會の振替口座は東京 11325 番)

|                  | 價目   | 送料 |                     | 價目   | 送料  |
|------------------|------|----|---------------------|------|-----|
| ★ザ博士演説集          | 0.80 | .4 | ★緑の星に憧れて            | 1.20 | .8  |
| ★夜の空の星の如く (同上和譯) | 0.80 | .6 | ★新覽王 (エス文)          | 0.30 | .2  |
| ★我國における外國語問題とエス  | 0.60 | .4 | ★悪夢 (エス文)           | 0.20 | .2  |
| ★カルロ (四方堂版)      | 0.20 | .2 | ★大成和エス辭典            | 4.80 | .18 |
| ★心の片隅            | 0.50 | .2 | ★大成エス和辭典 (在庫品整理) 特價 | 0.80 | .4  |
| ★詩集花束            | 0.80 | .4 | ★模範エスペラント會話 (出來)    | 1.20 | .4  |

◆日本語エスペラント小辭典 (三高) [普及版] ((値下)) 0.50 .2

◆模範エスペラント獨習 (秋田、小坂共著) [普及版] 1.00 .8

◆日・エス 對譯 會話 と 辭書 普及版 0.65 .6 上製 0.85 .6

本書は山鹿泰治氏の稿本によりエス語部は小坂先生、英語の部は根岸氏、支那語部は惠林氏の校閲修正を経たものである。

◆エス絹ハンケチ 本誌七月號廣告のもの學會で取次ます。A種 5 錢、B種 78 錢 (週名入——希望の曜日名申出の事) 送料各 2 錢

## 日本エスペラント學會正維持員芳名 (第六回發表)

おこさわり：——今回名簿作製に當りこれ迄五回に亘つて發表しました正維持員芳名中發表漏れの方々を發見しましたので其後の正維持員になられた方々と一緒に今度發表しました。これ等の方々には御詫申上ます。

|        |         |        |         |        |
|--------|---------|--------|---------|--------|
| 岡本 利吉  | 岩本 松平   | 石 丸 汪  | 石 丸 ミツヨ | 池田 實雄  |
| 江 尻 學  | 萩 田 誠   | 伊 藤 歎一 | 秋 本 洲留夫 | 川 瀬 豐  |
| 姜 一 山  | 笈 太 郎   | 寺 田 周二 | 坂 西 次   | 諏 訪 武夫 |
| 篠 葉 勇吉 | 杉 崎 浪江  | 佐 藤 糸子 | 庄 野 小一郎 | 田 邊 兵藏 |
| 田 村 精一 | 長 野 七郎  | 野 畑 鐵造 | 成 田 隆二  | 堀 要    |
| 林 秀 二  | 深 谷 陽二郎 | 廣 江 方正 | 細 井 一六  | 星 野 章夫 |
| 森 本 重武 | 矢 川 徳光  | 勝 島 康一 | 野 村 公郎  | 安 田 龍夫 |
| 伊 達 成勳 | 伊 吹 順一郎 |        |         |        |

新賛助維持員 岩本國平、森本謙藏

## KORESPONDA FAKO

★Japanujo:—S-ro Jūjūro Kauagiši, 10-13 Inami-machi, Toyama-ken, Japanujo, deziras intersangi libron, gazeton kaj grafikajon.

★Japanujo:—S-ro Isaku Nakano, Sirahama 541, Sikama-gun, Hygōgo-ken; kēl. I. P. L.

★Ĉ.ĥoslovakujo:—S-ro Frant Kučera; obchodnik. Kunovice, vUh. Hradište, Morava, 日本 人と交通希望。

★Ĉ.ĥoslovakujo:—Emilo Chudoba, Stonava, Silezio, dez. kēl. per L. PI (bdf).

★Revue Orienta 第6年3月號、第8年8月號お譲り下さい。Japania Esp-isto 明治40年41年 發行のもの4-5部あり差上げます。堺市瓦町 835 福西卯之助。

## 東京市内外在住の同志諸君へ

本年度大會もいよいよ近づきました。ついては御參加の有無もなるべく早くしらせて下さい。大會の費用は未だ豫定額にみちませんから應分の御寄附を願ひたく存じます。

東京市牛込區新小川町 日本エス學會内 大會準備委員

感謝；名古屋の白木欽松氏より大會參加者に對してみやげとして金 屬製食器を澤山寄贈して下さいました事を厚く感謝致します



# の發賣に機會を大會

★いづれも定價猶未決定・十月號に詳細表發・但し何れも大會當日出來★

## ◆リングワイ・レスポンドイ

菊版半截百頁美裝

ザメンホフ博士のあの透徹明快な語學上のレスポンドイは我々 에스ペ란チストの聖典である。本文の外緒論 (Enkoninko) を附し極めて詳しい索引を添ふ。

四六判美裝二百頁

偉人ザメンホフ博士全傳

## ★新版 愛の人ザメンホフ

松崎克巳譯

ブリッア博士原著

## 感謝 !!

出版素助、足主閣文叢元、如く知るも誰し一氏は出版界稀にみる清廉の士であり且「模範エス獨習」の出版書肆として大いに我がエス界のため盡瘁された方であるが今回我學會の發展を祝し「愛の人ザメンホフ」の紙型を寄贈する。ここに記して深く謝意を表明します。

新版は從來の誤植 (數十ヶ所) を全部一掃し附録を訂正の上新裝をこらして發賣す。

語學の上達は

之が活用とにある  
單語の記憶と

城戸崎益敏著



エラ  
スペ

## 單語カルト

本カードは單に單語の意味を羅列した様なものでなくすべてその單語より誘導された合成語を收め且色々の用例を Zamenhof Kabe 其他の著書より約 2800 を採用してゐるからエス文和譯 和文エス譯にも活用できて重寶である。

初學者も 中等學者も備ふべきものである。

財團 日本 에스ペラント 學會 出版部



我國に於けるエスペラント普及・研究・實用の中心機關

財團 日本エスペラント學會  
法人

【東京市牛込區新小川町三の十五】 【振替口座東京 11325 番】

◆すべての運動は大衆の協力に俟たねばならぬ。今やエスペラント普及運動は最も多  
衆の協力を必要とする時だ。各地同志の大同團結が必要だ。個々人の叫びは個々人の  
叫びにすぎない。大衆の叫びは輿論の喚起だ。組織だつた協力こそ眞の力だ。  
◆エスペラントを愛するものは誰しも御入會下さい。(會員は法規上維持員とよぶ)

目 的

エスペラントの普及、研究、實用

事 業

- (a) エスペラントに關する各種の研究調査及其發表
- (b) 雜誌及圖書の刊行等
- (c) 講演會、講習會の開催及後援
- (d) 其他本會の目的を達成するに必要と認むる事業

會 費

- (a) 普通維持員 年額 2 圓 40 錢 (b) 正維持員 年額 3 圓
- (c) 贊助維持員 年額 5 圓 (d) 特別維持員 年額 10 圓以上
- (e) 終身維持員 一時金 100 圓以上

入會手續

住所、職業、姓名(振カナ付)を明記し會費一年分を支拂へばよい。(振替送金最も安全)

會 員 の 特 典

- 1. 毎月研究雜誌“La Revuo Orienta”の配布をうく
- 2. 出版圖書の割引をうくることあり
- 3. 語學上の質疑其他一般の問合の返事をうく
- 4. 宣傳の「葉」その他宣傳材料を無料でうくることを得

詳しいことは直接お問合せ下さい

役 員 名 簿 (五十音順)

|     |          |         |          |             |
|-----|----------|---------|----------|-------------|
| 理事長 | 理 學 博 士  | 中村 精 男  | 理 事      | 美野田 琢磨      |
| 理 事 |          | 秋 田 雨 雀 | 慶大教授醫學博士 | 望月 周三郎      |
| 同   |          | 上 野 孝 男 | 東京朝日新聞顧問 | 柳 田 國 男     |
| 同   | 東京女子大學教授 | 河 崎 な つ | 鐵 道 技 師  | 小 坂 狷 二     |
| 同   | 中央大學教授   | 川原次吉郎   |          | 大 井 學 三     |
| 同   | 帝大教授文學博士 | 黒 板 勝 美 |          | 三 石 五 六     |
| 同   | 政治教育會長   | 小林鐵太郎   | 監 事      | 高 層 氣 象 臺 長 |
| 同   | 專修大學教授   | 高楠順次郎   | 同        | 東京府會議員      |
| 同   | 帝大名譽教授   | 土 岐 善 磨 | 同        | 帝 大 教 授     |
| 同   | 文 學 博 士  | 西 成 甫   | 同        | 法學博士 男      |
| 同   | 東京朝日調査部長 |         | 同        | 授 爵 爵       |
| 同   | 帝大教授醫學博士 |         | 同        | 子           |

本誌購讀料 (郵税別)

|     |        |                  |
|-----|--------|------------------|
| 一 部 | 圓 0.20 | 學會持維員には<br>無代頒布す |
| 半年分 | 圓 1.20 |                  |
| 一年分 | 圓 2.40 |                  |

本會振替 { 一 般 { 東京 11325 番  
會計用 { 長 野 3283 番  
口座番號 { 基本金專用東京 32089 番

昭和四年 八月十五日印刷  
昭和四年 九 月 一 日發行

編輯兼  
發行人  
印刷人

東京市牛込區新小川町三ノ一五  
大 井 學  
東京市神田區三崎町三ノ一四六  
高 見 澤 保 芳  
(一 匡 印 刷 所)

發 行 所

東京市牛込區新小川町三ノ一五  
財團 日本エスペラント學會  
法人

昭和四年九月一日發行 (毎月一圓一日發行)  
エスペラント研究雜誌「ラ・レヴ・オリエンタ」第十九年第九號

定價貳拾錢 (送料貳錢)